

令和3年度 研究紀要

# しらかみ

第 28 号

児童生徒の

「分かった、できた、もっと知りたい」を高める授業づくり

(1年次／2か年計画)

秋 田 県 立 能 代 支 援 学 校

## 発刊に当たって

本校では、昨年度までの2か年の研究で、『主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科の授業づくり』をテーマに、「児童生徒の実態把握」「自立活動の中心的な課題の確認」「学習評価と授業改善」「学習指導要領の目標・内容の確認」など、教科別の指導をとおして授業づくりの基礎・基本を再確認しました。また、「対話的な学び」の実現に向けて課題として挙げられた、音声言語による表現が難しい児童生徒への支援等の工夫について、全ての児童生徒が、主体的に、安定した気持ちで授業に向かうことができるように、表情や身振り・手振り、指文字・手話のほか、V O C Aや視線入力装置などのI C T機器を使って意思表示できる環境づくりにも取り組みました。

これらを踏まえ今年度は、研究主題を「児童生徒の『分かった、できた、もっと知りたい』を高める授業づくり」とし、生活単元学習に焦点を当て、指導計画の改善、ICT 機器を活用した授業改善等について、2か年の計画で取り組むことにしました。

学習指導要領では、習得した個別の知識を既得の知識及び技能と関連付けながら深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できる確かなものに高めていくこと、その内容を学ぶことで児童生徒が「何ができるようになるか」を併せて重視しています。さらに、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)では、「知的障害のある児童生徒の学習上の特性としては、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいことや、成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことなどが挙げられる。また、実際的な生活経験が不足しがちであることから、実際の・具体的な内容の指導が必要であり、抽象的な内容の指導よりも効果的である」と述べています。

知的障害のある児童生徒の学習指導を行うに当たっては、知識や技能が定着するまでに十分な時間を掛け、何度も繰り返す中で、子どもの「分かった姿」「できた姿」「もっと知りたいと思う姿」を丁寧に見取りながら進めていくようにしています。知識・技能の定着と活用に至るまでのプロセスにおける教師の「見取り」が重要と考えます。「分かった姿」は、授業の最後にのみ見られるわけではなく、授業の中で何度も訪れます。「やり方が分かった」「結果(答え)が分かった」「友達の言いたいことが分かった」「自分の気持ちが分かった」など、いろいろな場面で「分かる姿」が見られます。「点と点とが結びつく瞬間」が授業の中で何度も見られます。その姿は、「分かるようにする姿」「分かりたいと思う気持ち」など、学びに向かう子どもの姿の先にあります。「できた姿」も同様に、「できるようにになりたい」という思いや願いの先にあります。子どもは好奇心の塊です。子どもの「なぜ」という思考を捉え、それに応えた先に、一つの好奇心はさらなる好奇心を育て、「もっと知りたい」「もっと教えて」となるのではないのでしょうか。私たち教師は、「学ぶことが楽しい」ということを伝え、学び方を教え、学びの種をまき続けるという役割を確かなものにするのと、子どもの真の姿を捉える確かな目を持ち、子どもの小さな変化を見逃さない生きた授業にすることを、授業研究をとおして学び続けなければなりません。

本紀要は、この一年の学びの積み重ねであり、校内授業研究会、公開授業研究会でいただいた様々な意見や指導から学んだことをまとめたものです。御一読いただき、多くの皆様から御意見、御指導を賜りますようお願いいたします。

結びになりますが、研究を進めるに当たりまして、秋田きらり支援学校教諭 跡部耕一様、秋田県教育庁特別支援教育課の指導班の皆様から御助言と御協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

校 長 佐藤 玉緒



# 目次

発刊に当たって

研究の概要 \_\_\_\_\_ 1

研究の実際

小学部の実践 \_\_\_\_\_ 4

中学部の実践 \_\_\_\_\_ 13

高等部の実践 \_\_\_\_\_ 19

全校授業研究会の記録 \_\_\_\_\_ 26

寄宿舍の実践 \_\_\_\_\_ 38

研究の成果と課題 \_\_\_\_\_ 43

あとがき

研究同人

# 研究の概要

## 研究の概要

### I 研究主題

児童生徒の「分かった、できた、もっと知りたい」を高める授業づくり（1年次／2か年計画）

### II 研究主題の設定理由

昨年度まで本校は、教科別の指導について2年間の研究を実施した。各教科に対する理解を深めながら、主体的・対話的で深い学びの視点を基に授業づくりを行い、複数の教師で定期的に児童生徒の変容を見取り、授業改善や単元構想の見直しを図った。身近で分かりやすく、実生活とつながりのある単元・題材設定により、児童生徒が主体的に活動に取り組み、授業の中で「分かった、できた、もっと知りたい」という姿を生み出し、深い学びに結び付くようになってきた。この中でICT機器を効果的に活用することが有効であり、職員の中でも授業の中で使ってみようとする意識が高まっている。ICT機器は児童生徒、職員にも身近なものとなり、それぞれの実態に応じて使いこなすことが求められている。

また、これまでの研究を通して、各教科で学んだことを日常生活や他の学習などで生かすためには、どのような内容を取り上げたらよいのか具体的に考え、指導に当たることができるようになってきた。児童生徒にとって、学校での生活を基盤として、学習や生活の流れに即して学んでいくことが効果的である。そこで、今年度からは、各教科等を合わせた指導で3学部に通じた指導の形態である生活単元学習の授業づくりを考えることにした。

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）にあるように、生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験する学習である。児童生徒のどのような力を育成したいのか明確に示し、教科横断的な視点をもって、学習内容を意識的に関連付けることが必要である。また、学んだことが積み重なり、児童生徒の力となるには、「何をどのように学ぶのか」という指導方法が重要である。授業の中でICT機器を活用しながら、より学びの喜びを感じることができるようになりたい。児童生徒の変容に基づいて授業改善を重ねることで、「分かった、できた、もっと知りたい」という姿が多く見られる授業となり、自ら進んで学習に取り組もうとする力を高めることができると考え、本研究主題を設定した。

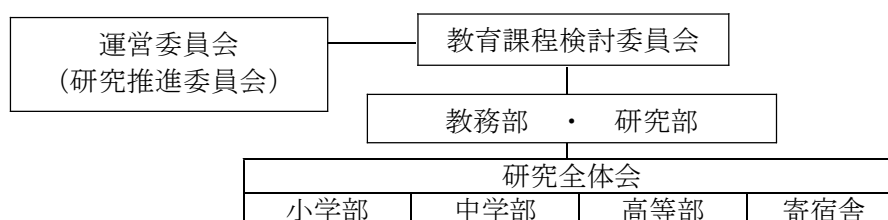
### III 研究の目的

- ・児童生徒が、これまでの学習や経験などを生かしながら、進んで学習に取り組むことができる指導計画の改善を図る。
- ・児童生徒の学びの充実に向け、ICT機器の特長を生かすなどの授業改善をする。

### IV 研究仮説

育みたい資質・能力を明確にした目標設定を行い、主体的・対話的で深い学びの視点で授業づくりと改善を効果的に積み重ねることで、児童生徒が「分かった、できた、もっと知りたい」という姿で、授業の成果を生かしながら、進んで課題解決に取り組むであろう。

### V 研究組織



- ・教育課程検討委員会：校長、教頭、学部主事、主任寄宿舎指導員、分掌主任

## VI 研究内容・方法

### 1 児童生徒の目指す姿の明確化

#### (1) 児童生徒の「育みたい資質・能力」を基にした指導計画

##### ①個別の支援計画データベース

4つの力別指導内容表（日常生活に必要な力、人と関わる力、豊かな生活に必要な力、働くために必要な力）を基に実態把握を行う。そこから、自立活動の6区分27項目を基に困難の背景を考え、「中心的な課題、指導の方針」を設定する。

個別の支援計画は、「中心的な課題」を基に、学部卒業段階（小学部は3年スパン）で達成できる「長期目標」に向けた「今年度の具体的な支援の内容」を設定する。

##### ②個別の指導計画

「中心的な課題」を基に、前・後期の指導目標と手立てを設定する。

##### ③年間指導計画

指導の形態ごとの年間目標、各単元・題材毎の目標、主な学習内容と時数を設定する。

#### (2) 児童生徒の指導計画の目標設定、評価についての見直し

各指導計画については、随時、評価改善を行うこととしているが、定期的な見直しの機会を設定している。

##### ①個別の指導計画

学級担任と寄宿舎担当が、児童生徒の変容や今後の取組を明確にするために、目標設定や評価の検討を行った。

5月6～21日	目標設定等の検討週間
7月26、27日	前期評価検討会
12月20～24日	後期評価検討会
3月下旬	次年度の目標等の作成

##### ②年間指導計画

学級・合同学習それぞれの担当が、単元・題材の目標設定や評価、今後の授業づくりの検討をするために、指導の形態ごとに教科部会を行った。

4月14日	目標、学習内容の検討
7月27、28日	前期評価検討会
1月11～13日	後期評価検討会
3月下旬	次年度の指導についての検討

### 2 児童生徒の目指す姿を達成するための生活単元学習の授業実践

#### (1) 目標の「育みたい資質・能力」の明示

授業のねらいを明確にして目標達成の手立てを検討することができるように、単元や個別の目標が、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）の資質・能力の視点のどれに当てはまるかを記載した。

知識・技能	何が分かるか、何ができるか
思考力・判断力・表現力等	分かったこと、できたことをどのように使って、考えたり、工夫したり、表現したりするか
学びに向かう力・人間性等	知識・技能、思考力・判断力・表現力等をどのように働かせ、学んだことを実感するか

#### (2) 主体的・対話的で深い学びの視点で行う授業づくり

令和2年度の研究で定めた以下の視点を基に指導に当たった。また、有効な手立てや改善事項を明確にするために、学部・全校授業研究会、公開授業研究会を実施した。

主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"><li>・興味関心をもって学習する</li><li>・学習活動の見通しをもち、最後まで取り組む</li><li>・自分の学びを振り返り、次時に生かそうとする</li></ul>
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"><li>・友達や教師の働きかけたり、働きかけを受け入れたりする</li><li>・自分の考えを深めるために、教材に注目したり、他者の意見を取り入れたりする</li></ul>

深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚えたことや学んだことを実践する</li> <li>・新たな考え方や見方に気付き、受け入れる</li> </ul>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) ICT機器の活用に関する研修

職員が使う教材・教具から、児童生徒の実態に応じた活用や集団学習での活用を促進することができるように、学部・寄宿舎研での情報提供やアプリを操作する体験などを行った。

Ⅶ 研究計画

月	全校の動き	学部の動き	職員研修
4	15日 研究推進委員会① ・今年度の研究の検討 20日 研究全体会① ・今年度の研究の説明	26日 学部研① ・中心単元の年間計画の検討	23日 寄宿舎ICT研修① ・iPadの使い方
5	10日 研究全体会② ・中心単元の年間計画の修正	28日 学部研② ・計画訪問に向けた中心単元の授業づくりの検討	28日 学部ICT研修① ・電子黒板の使い方 28日 寄宿舎ICT研修② ・書画カメラの使い方
6		21日 学部研③ ・計画訪問の授業展開の検討	30日 寄宿舎ICT研修③ ・電子黒板の使い方
7	15日 指導主事計画訪問	27日 学部研④ ・計画訪問を受けた改善事項の確認	
8		23日 学部研⑤ ・学部で目指す児童生徒の姿の見直し	4日 学部ICT研修② ・Zoomの使い方(寄宿舎との合同研修)
9	3日 高1全校授業研究会	8日 小3公開授業事前研究会 14日 中2学部授業研究会 15日 小4学部授業研究会 30日 学部研⑥ ・前期授業の評価と後期授業目標の検討	22日 寄宿舎ICT研修④ ・様々な機器の活用体験
10		29日 学部研⑦ ・授業研究会に向けた指導案検討など	29日 寄宿舎ICT研修⑤ ・Zoomの使い方②
11	9日 中1全校授業研究会	25日 学部研⑧ ・めあてとまとめの改善案の検討	12日 寄宿舎ICT研修⑥ ・Clipsの使い方
12	8日 小4公開授業研究会	15日 高2学部授業研究会 17日 高3学部授業研究会 17日 学部研⑨ ・中心単元の授業実践の振り返り	17日 寄宿舎ICT研修⑦ ・他校研究会等の実践事例紹介①
1		13日 学部研⑩ ・研究紀要の原稿作成	
2	22日 研究全体会③ ・今年度の研究の成果と今後の取組について		
3	15日 研究全体会④ ・今年度の研究の成果と今後の取組について	23日 研究推進委員会② ・来年度の研究計画について	寄宿舎ICT研修⑧ ・他校研究会等の実践事例紹介②(資料配付)

# 研究の実際

本校では、指導の形態ごとに目標や計画立案、授業づくりのポイントをまとめた「共有シート」を作成している。各学部の授業実践については、「令和3年度 生活単元学習 共有シート」を基にした。また、今年度の成果を基に、「令和4年度 生活単元学習 共有シート」を作成し、各学部の巻末に資料として添えている。



## 小学部の実践

### 1 生活単元学習の目標

- ・行事や学部や学級のテーマに応じた実際的な活動を繰り返す中で、自分の役割を知り意欲的に活動に取り組んだり、「できた」という達成感を味わい自信をもって活動したりする力を高める。
- ・異学年、他学部、地域の方などさまざまな集団での活動に取り組み、さまざまな人との関わりを広げるとともに、目的を達成するために仲間と力を合わせて活動する。

### 2 年間指導計画立案の留意点

○学部合同学習の設定	「様々な人とのよりよい関わり」と「主体的な活動」をねらいとした異学年での学習活動の設定 ・農業技術センターとの交流に関する単元（1～6年） ・新入生を迎える会、宿泊学習、学校祭、卒業生を送る会等
○地域とつながりのある活動	農業技術センター、能代市農業振興課との交流活動の継続 ・さつまいもの苗植え、収穫、収穫祭の継続、学校畑の活用 ・市のイベント等の参加を目的にした単元の実施
○学部合同生単と学級生単	学習のテーマに沿い、学部合同で取り組む時期・時間割を計画的に設定し、学級生単の時間を確保する。
○学級での学習活動	学習のねらいに応じて、公共交通機関や地域の物的、人的資源の活用（木カフェとのつながり、買い物学習、地域の先生や地域に学びに行く等）を計画的に実施し、学習を積み重ねる単元の設定

#### 【各学年のキーワード及び指導内容の例】

1年	学校に慣れる・学校を知る	学校教育入門期→仲間作り、各行事を大切に取り扱う
2年	友達と一緒に活動する	学校生活に見通しをもち始めた時期→「一人でできた」を積み重ねながら、周囲に意識を向ける
3年	高学年を意識して	低学年のリーダーとしての参加態度の意識付け
4年	高学年として態度や学習に慣れる	集団や学習の変化への対応
5年	次期リーダーの育成	家庭科的内容にも配慮する
6年	中学部を意識して	作業的な内容にも配慮する

### 3 年間指導計画の単元構成

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1・2月	3月
1年	学級づくり	学年単元		小学部まつり	学年単元	学校祭	学年単元	ありがとうまつり	学年単元	進級・卒業に向けて
2年										
3年										
4年		宿泊学習								
5年										
6年		修学旅行								

### 4 生活単元学習の授業づくりのポイント

単元構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分たちが楽しんだことを地域のみんなにも広げよう」という子どもの発信につなげる動機付け</li> <li>・児童の安心感と活動への見通しに考慮した、同じ地域と複数回関わる学習活動</li> <li>・役割や学習活動を通して様々な人と関わり、「できた」の実感がもてる学習活動</li> </ul>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

単元の指導 計画や授業 での観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のゴールをイメージできるような導入の活動設定</li> <li>・一人一人の良さや得意なことを生かしたり、課題に合わせたりしたグルーピングの工夫と活動や役割の設定</li> <li>・一定の期間、十分な活動に継続して取り組み、その中でミニゴールを設けて達成感を味わったり、次への意欲付けを図ったりする単元計画</li> <li>・活動の目的が分かるような単元計画の提示や学習活動の掲示の工夫</li> <li>・活動の目的ややること、頑張ることが端的に分かるような導入の工夫とそれに対応した振り返りの充実（どうしてよかったのか、何をがんばったのか等）</li> </ul>
------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 5 各学年の中心単元の実践【成果○／課題▲】

小学部 1 年	
単元名	つくってみよう！わくわくおもちゃ②
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の演示やイラスト等を見ながら、おもちゃの一部を一人で、または教師と一緒に作る。【思・判・表、学・人】</li> <li>・印に沿って、材料をはさみで切ったり筆記具で線を描いたりする。【知・技】</li> <li>・頑張ったことや気付いたことを、言葉や身振りなどで表現する。【思・判・表、学・人】</li> </ul>
指導の実際	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な大きさや形状の材料を使用し、直線や丸などの印を付けることで、印に沿ってはさみで切ることや貼り付けることなど、一人でできる部分が増えた。</li> <li>・制作物を提示しながら、一人一人発表の場面を設定したことで、楽しかったことや頑張ったことを、自分なりの言葉や身振り等で表した。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作の流れを演示することで、制作内容が分かり、一部の制作を一人で進めた。</li> <li>・様々な素材に十分に触れる場面を設定することで、自分から制作しようとするが増えた。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色塗りの完成形の見本を示し、見本とマッチさせながら色塗りをする活動を繰り返したことで、同じ色を選んでその場所に塗ることができるようになってきた。</li> <li>・児童の発言を受けて、さらに発問（理由や状況を問う等）をすることで、自分なりに考えて定型文ではない応え方をすることができるようになってきた。</li> </ul>	
成果と課題	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の実態に即した、教材や手掛かりを使用することが効果的であった。</li> <li>○発表場面を毎回設定し、積み重ねていったことが良かった。</li> <li>▲「挑戦したい」と思えるような、少し難しい活動、課題の設定が必要であった。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動の流れの理解には、演示が最も効果的であった。</li> <li>○興味をもてる素材や動きを、活動に十分に取り入れた。</li> <li>▲イラストや言葉などの、効果的な示し方の検討が必要であった。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「注目する」「比べる」「選ぶ」ということを取り入れ、制作の中で繰り返し設定できた。</li> <li>○様々な問い掛けから児童の考えや気持ちを引き出すこと、それを適切な言葉・サインに置き換えて表すことを組み合わせて行ったのが効果的だった。</li> <li>▲自分で「判断する」「考える」多様な場面を設定することが必要であった。</li> </ul>	

小学部 2年	
単元名	いろいろなかたち～まる、さんかく、しかく～
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丸や三角、四角などの形があることに気付き、見付けたり、描いたりすることを楽しむ。【知・技】</li> <li>・形を組み合わせて他の形を作り、できたものを言葉やジェスチャーで相手に伝えようとする。【思・判・表】</li> <li>・形を用いて、関心のあるものを描くことを楽しみ、継続して学習に取り組む。【学・人】</li> </ul>
指導の実際	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動にパズルを取り入れることで、形のピースを並べて、上下左右に動かしたり別のピースに替えたりして、集中して取り組んだ。</li> <li>・テープの芯やバケツなど身近にあるものを使って形を描く学習を行ったことで、身の回りのものに関心を持ち、意欲的に学習に向かった。</li> <li>・段ボールやプラスチックなど様々な素材を使用して、形を表す活動を行うことで、形を切り取った後に指で形をなぞるなど、形を意識して取り組んだ。</li> <li>・形をなぞり、はさみで切る活動を継続して行うことで、段ボールを押さえる手の位置を変えたり、それに合わせて描く場所を変えたりして工夫して書くようになった。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な大きさの形を提示することで、四角形を階段状に並べ、「大きい(小さい)四角形をくたさい」と教師に伝えてから描くなど、イメージをもって取り組んだ。</li> <li>・大きな箱を使用することで、児童同士で箱を運んだり、積み重ねた箱が自分の背丈より高くなると椅子や机を使ったりするなど、周りにあるものを使用し、工夫して活動するようになった。</li> <li>・一人の児童が「ドミノ」と発し、並べている様子を見て、他の児童も並べ始め、全部の箱を並べた後、全員で倒すことを楽しんだ。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積み木を高く積み上げ、不安定な状態になり崩れてしまうと、すぐにやり直したり、不安定な所を手で押さえ、ゆっくり手を離して積み上げたりするなど、工夫して活動に取り組んだ。</li> <li>・ドミノを友達と一緒に並べている途中で、友達が倒してしまったときに、「もう1回」と友達に言葉を掛けるなど、ドミノをとおして友達と関わる様子が見られた。</li> </ul>	
成果と課題	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○シンプルな形を用いて、学習活動を進めることで、身近な形への気付きや挑戦してみようとする意欲につながった。また、イメージをもって表現したりするようになった。</li> <li>○活動内容を「なぞる、かたどる、組み合わせる(表現する)」や「並べる、倒す」など児童に分かりやすい活動を設定することで、継続的に学習に取り組んだ。</li> <li>○ダンスや教材を用いて、手や体を動かして覚える活動を主軸に置くことで、既習したことを思い出しやすくなり、学習内容の定着につながった。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の様子に応じて、提示する形の大きさや素材の種類などを変えて提示することで、児童が自ら工夫したり、友達の様子を見て一緒に活動したりするようになった。</li> <li>○児童の発言を学習活動に取り入れることで、集団全体の活動に広がった。</li> <li>▲児童のイメージや意欲をより高められるように、異なる形同士を組み合わせる学習活動の時間が十分に設定する必要があることがあった。</li> <li>▲児童に応じた発問の仕方の検討が必要であった。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○形を描けるようになったことを喜び、ノートにたくさん描くなど、できるようになったことが増え、学習や遊びへの関心が高まり、一人でじっくり取り組める活動が広がった。</li> <li>○できなくてもあきらめずにやり直したり、できたことを喜び、積極的に活動に向かったりするようになった。</li> <li>○ゲーム性のある活動にしたことで自分で考えたり、友達に働きかけたりすることが多くなった。</li> </ul>	

▲児童がより身の回りや生活に気付きをもつように、行動範囲を広げた活動を設定する。

小学部3年	
単元名	きらきらぐんぐんらんど③～みんなでいっしょにもりあげよう～
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作活動に繰り返し取り組むことで約束を守って道具を使うことができる。【知・技】</li> <li>・相手に喜んでもらえるように、手順通りに見本と同じ物になるよう制作する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割に進んで取り組み、伝わりやすい話し方や丁寧な物の渡し方等気を付けてお客さんとやり取りをする。【知・技】 【思・判・表】 【学・人】</li> </ul>
指導の実際	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が児童と同じ物を使って、制作活動の初めから終わりまでを演示したことで、手順が分かり、材料を自分から取りに行き制作した。</li> <li>・プレゼントの制作やゲーム運営を相手を変えて繰り返し取り組んだことで、手順や役割が分かり、見通しをもって活動した。</li> <li>・児童の得意なことや興味関心のあること等をゲーム運営の役割に設定したことで、自分から役割に向かい、楽しんで取り組んだ。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームやゲームコーナー会場の準備で、設置場所に写真を貼ったことで児童同士で声を掛け合いながら場所を探して準備した。</li> <li>・授業のめあてで各自の頑張るポイントを写真やイラストで伝えた。振り返りの前には再度ここに注目するよう言葉を掛け、振り返りの発表後は活動中の姿や行動を認め、意味付けをした。このことを繰り返したことで、自分の頑張りをめあてに即して発表することが増えてきた。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師を招待して運営練習を繰り返し、感想をもらったことで、「自分が仕事を頑張ったことでお客さんはゲームを楽しんだ」と少しずつ実感でき、「仕事を頑張ってお客さんを笑顔にする」という意欲につながった。</li> <li>・ゲームコーナーの運営で、自分の役割以外の仕事に取り組んだ児童の様子を学級全体に紹介した。よい行動であると気付き、自分から他の仕事にも取り組む姿や友達を手伝う姿が見られた。</li> </ul>	
成果と課題	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動への見通しがもてるように、制作活動やゲームの運営活動を繰り返し設定した。</li> <li>○自分から役割に取り組みたくなるように、児童の実態や興味関心に合わせた役割を設定した。</li> <li>○制作の演示を最後まで行うことが、見通しをもって制作するのに効果的であった。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○準備や片付けを児童同士で取り組むために、設置場所や道具の置き場所に写真を貼った。</li> <li>○めあてと振り返りが分かりやすいように、一人一人に合わせて頑張るポイントを伝えたことや、教師が児童の行動や姿に意味付けすることが効果的であった。</li> <li>▲振り返りの場面で児童同士が認め合えるような発問の検討が必要であった。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲーム運営の練習に、お客役の教師を使ったことで、接客のイメージがもてるとともに、評価となる感想を聞くこともできた。</li> <li>○児童のよい姿や行動を全体に伝えることで、それをまねたり自分で判断して行動するきっかけとなったりした。</li> <li>▲今後は、自分たちで考え、判断し行動するための場面設定が必要。</li> </ul>	

小学部4年	
単元名	「教え隊！伝え隊！② ～はらぺこあおむしを發表しよう～」
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表内容や自分の役割が分かり、お客さんに発表することを楽しみに準備や練習に進んで取り組む。【知・技】【学・人】</li> <li>・ 教師や友達と相談しながら、発表の準備に取り組む。【思・判・表】</li> <li>・ 発表を通して、友達の良いところに気付き、自分なりの方法で伝える。 【思・判・表】【学・人】</li> </ul>
指導の実際	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の流れを統一したことで、活動に見通しをもち、制作や発表に必要なものを教師や友達に伝え、自分から準備しようとする姿が増えた。</li> <li>・ 発表をするときの立ち位置や役割などを視覚的に示したことで、自分で動いたりせりふを話したりした。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童同士で相談する場面で、話し合いの手掛かりとなるようなイラストカードや具体物を用意したことで、何について相談しているのかが分かり、自分の意見を伝えた。</li> <li>・ お客さんに発表し、直接感想や称賛の言葉をもらうことで、発表に対して自信や意欲をもち、楽しみにする姿が見られた。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制作する際に良い見本と悪い見本を示したことで、二つを比較し、「白いところがないように塗る」などポイントを自分の言葉で具体的に話し、実際に気を付けながら作ろうとするようになってきた。</li> <li>・ 発表の練習場面を動画で振り返ることで、自分や友達の良いところに気付いて伝えたり、振り返りで話題になったことを次の練習で意識したりするようになった。また、振り返りの観点を児童が分かるように「声」「姿勢」「動き」「顔」の4つで示したことで、「○○さんの顔がにこにこでいいね。」など具体的な評価をするようになってきた。</li> </ul>	
成果と課題	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動に見通しをもつために、活動の流れを統一し、視覚的な手掛かりを示した。</li> <li>▲活動内容に「何のためにやるのか」という目的意識をもつための手立てが不十分だった。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合い場面で、自分の考えを伝える補助的手段として、イラストカードや具体物を用いて選択肢を示した。</li> <li>○お客さんに評価してもらうことは、児童の意欲が高まるだけでなく、自分の良さに気付くためのきっかけとして効果的だった。</li> <li>▲話し合い場面で、児童同士で何をどこまで話し合わせるのか十分な検討が必要だった。</li> <li>▲他者評価してもらう場面が少なかった。発表の機会を増やすことができればよかった。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○動画を使って自分たちを客観的に評価する場面を設定したことで、自分や友達の良さに気付いたり、自分と友達を比較したりしながら、具体的な言葉で振り返りをした。</li> <li>○話し合いや振り返りの場面で具体例や観点を示すことが、児童が自分で判断したり評価したりすることにつながった。</li> <li>▲掲示などを活用して、学びの積み重ねが分かるようにする必要があった。</li> </ul>	

小学部5・6年	
単元名	レッツトライにこにこまつり②
目 標	・相手が喜んでくれるゲームやプレゼントを考え、制作する。【知・技】【思・判・表】 ・招待した相手を楽しませることを意識しながら、交流会で自分の役割に取り組む。 【知・技】【思・判・表】【学・人】
指導の実際	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行中に遊んだ太鼓相撲の経験を振り返ることで、自分たちでも作ってやってみたいという気持ちを持ち、積極的に活動に取り組んだ。</li> <li>・完成したゲームで、自分たちが思う存分楽しむ時間を確保したことで、相手にも同じように楽しんでもらいたいという気持ちを高めた。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とペアの活動場面を設定したことで、「ここは〇〇だよ」「△△さん、どうぞ」など、ペアの友達同士で声を掛け合って活動した。</li> <li>・写真などの視覚教材を使い、友達一人一人の顔と名前を丁寧に確認しながらプレゼントを制作し、直接手渡ししたことで、日常生活の中でも意識して関わることが増えた。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会の係を一人一役固定化して、各学級との交流会を行ったことで、それぞれが自信をもって役割に取り組み、会の大体の部分を進行できるようになった。</li> <li>・招待した相手が笑顔になったかを画像で振り返ることで、おもてなしをする楽しさや大切さを感じることができた。</li> <li>・制作したゲームを地域の行事でも活用してもらい、自分たちの取り組みの自信を深めた。</li> </ul>	
成果と課題	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちの過去の経験を題材に生かすことが、制作内容にイメージを持ち、積極的に取り組む姿を引き出す上で効果的であった。</li> <li>○制作したとんとん相撲のシンプル、イレギュラーなゲーム性がよかった。自分の力で楽しむ、勝敗にこだわらずに楽しむなどの姿を引き出した。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童同士の直接のやりとりが、日頃曖昧だった他学級の友達を意識する機会になった。</li> <li>○写真などの視覚的な教材の活用が、相手意識や次の活動への期待感を高めた。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○係や交流会の流れの固定化や活動の繰り返しが、自分たちで判断して交流会の会場準備を進める、自分の係の大体の部分を一人で務めるなどの姿を引き出す上で効果的であった。</li> <li>▲どうしても自分たちが楽しみたい気持ちが強く出てしまうことがあった。相手を楽しませたい、おもてなしたいという気持ちをもつため、教師の意図的な働きかけが必要であった。</li> </ul>	

## 6 実践の成果と課題 [成果○/課題▲]

### (1) 育みたい資質・能力を明確にした目標設定について

- 今年度は学年での生活単元学習を中心に積み重ね、各学年の学習の成果を発表・披露し合う形で学部合同の単元を実施した。その結果、児童一人一人のねらいや成果が明確となり、学習活動や手立ての即時的な改善、教員間での成果や課題のスムーズな共有ができた。
- 学部研究会の中で、学年ごとに単元検討会や授業検討会を複数回行った。学年の教員で検討を重ねることで、児童の興味や関心に基づいた発展性のある単元や一人一人の実態に即した手立ての設定ができた。
- ▲単元の評価の機会が十分に設定できなかった。単元の改善の流れが見えるような形にし、改善

を続けていく必要がある。

- ▲各学年の単元のねらいや内容について共有し、1年生から6年生までの学年間の単元のつながりや発展性を明らかにしていきたい。

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点での授業づくりについて

- 学習活動に見通しや自信をもって取り組めるように、児童の実態や興味・関心に即した制作活動や発表活動、役割の設定などを行い、繰り返しの活動を取り入れた。
- 自分の頑張りや学びを感じ、言葉や身振り、表情で表すように、制作物、活動中の動画、教師や他学年の友達からの評価などを取り入れた振り返りの場面を設定した。
- 教材や手元に注目して活動に集中するように、教材に触れる、操作する場面を十分に設定した。
- 友達と関わり合いながら学習活動を進めるように、ペアや小グループなどのグルーピングで、友達や教師と関わる必然性のある場面を設定した。
- 自分で選んだり考えたりするように、見本と同じ色や形を選ぶ、見本と比べて違いを見付けるなど、判断する、気付く場面を設定した。
- 意見を詳しく述べたり理由を交えて話したりするように、意見や考えを決める、まとめるためのイラストや具体物を提示し、個別に丁寧に発問を行った。
- 意欲や見通しをもって学習活動に取り組めるように、授業の導入や展開場面でICT機器を活用した。
- 学習してきたことを手掛かりに児童が考えるように、あえて困る場面や試行錯誤する場面などを設定した。
- ▲学習に見通しをもって意欲的に取り組むことができたが、1時間における学び、1単元における学び（どんなことを学んだのか、できるようになったのか）の積み重ねに曖昧なところがあった。児童の学びが明確に分かり、共有できる取組が必要である。
- ▲1時間の授業の中で、児童が達成感や満足感をもち、学びを実感できるような振り返りの場面の工夫が一層必要である。
- ▲発表活動や制作活動の際に、「何のために」「誰のために」など、より目的や相手意識をもてるような働き掛けが必要である。
- ▲授業の導入や展開などの場面で、主に動画を活用する形でICT機器を使用した。今後は児童が自分で操作する場面も取り入れながら、より効果的なICT機器の活用の仕方を検討する。

## (3) 児童の変容：「分かった・できた・もっと知りたい」という姿

- 学習活動に見通しをもち、一人で取り組める働き掛けを充実させたことで、児童が自分の役割を分かり、自分で、または教師と一緒に最後まで取り組んだ。また、活動を繰り返すことで、自信をもって取り組むようになった。
- 様々な教材や道具を使用する中で、ものの名前や用途、使い方を知る、道具の扱いに慣れて一人で扱えることが増えた。
- 知っていることや自分の考えを、言葉で伝える、写真カードや具体物、身振りなどで伝えるなど、自分から表現しようとする姿が増えてきた。
- 自分の頑張りや分かって伝えたり、友達の様子に注目してその頑張りや良さに気付いて認め合ったりするようになった。
- 課題や教師からの発問に対してすぐに答えを求めずに、自分で考えたり試行したりする様子が見られるようになった。
- ▲「もっと知りたい」という姿があまり見られなかった。児童の「もっと知りたい」という思いを高められるような働き掛けの工夫が必要である。

## 7 今後の取組

- (1) 単元の評価と改善の積み重ね
- (2) 教科の視点を踏まえた、ねらいや学習内容の検討
- (3) 授業のまとめ、振り返りの場面の工夫
- (4) ICT機器の効果的な活用

### 1 生活単元学習の目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や学部や学級のテーマに応じた実際的な活動を繰り返す中で、自分の役割を知り意欲的に活動に取り組んだり、「できた」という達成感を味わい自信をもって活動したりする力を高める。</li> <li>・異学年、他学部、地域の方などさまざまな集団での活動に取り組み、さまざまな人との関わりを広げるとともに、目的を達成するために仲間と力を合わせて活動する。</li> </ul> <p>【学部重点に沿って育てたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に学習に取り組もうとする態度</li> <li>○周りの人に自分から関わろうとする力</li> <li>○友達と協力して問題を解決しようとする力</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2 年間指導計画立案の留意点

○学部合同学習の設定	「様々な人とのよりよい関わり」と「主体的な活動」をねらいとした異学年での学習活動の設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業技術センターとの交流に関する単元（1～6年）</li> <li>・新入生を迎える会、宿泊学習、学校祭、卒業生を送る会等</li> </ul>
○地域とつながりのある活動	農業技術センター、能代市農業振興課との交流活動の継続 <ul style="list-style-type: none"> <li>・さつまいもの苗植え、収穫、収穫祭の継続、学校畑の活用</li> <li>・市のイベント等に生かせる単元の実施</li> </ul>
○学部合同生単と学級生単	学習のテーマに沿い、学部合同で取り組む時期・時間割を計画的に設定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月、11月 学部合同単元(小学部まつり、ありがとうまつり)</li> <li>・4～6月、9月、12月、1～3月 学級単元</li> <li>・その他の時期は行事単元（運動会、宿泊、修学旅行、学校祭等）</li> </ul>
○学級での学習活動	学習のねらいに応じて、公共交通機関や地域の物的、人的資源の活用（木カフェとのつながり、買い物学習、地域の先生や地域に学びに行く等）を計画的に実施し、学習を積み重ねる単元の設定

#### 【各学年のキーワード及び指導内容の例】

1年	学校に慣れる・学校を知る	学校教育の入門期→仲間作り、各行事を大切に取り扱う
2年	友達と一緒に活動する	学校生活に見通しをもち始めた時期→「一人でできた」を積み重ねながら、周囲に意識を向けさせる
3年	高学年を意識して	低学年のリーダーとしての参加態度を意識していきたい
4年	高学年として態度や学習に慣れる	集団や学習の変化への対応
5年	次期リーダーの育成	家庭科的内容も入ってくる時期
6年	中学部を意識して	作業的な内容も意識したい

### 3 生活単元学習の授業づくりのポイント

単元構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の安心感と活動への見通しを考慮した、積み重ねの学習活動</li> <li>・役割や学習活動を通して様々な人と関わり、「できるようになった」「できた」の実感がもてる学習活動</li> <li>・「自分たちが学んだこと、楽しんだことを、みんなにも伝えよう」という子どもの発信につなげる動機付け</li> <li>・「もっと知りたい、やってみたい」という児童の思いを高め、より学びを深められる発展性のある学習活動</li> <li>・継続的な単元の評価と改善</li> </ul>
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



単元の指導 計画や授業 での観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のゴールをイメージできるような導入の活動設定</li> <li>・一人一人の良さや得意なことを生かしたり、課題に合わせてたりしたグルーピングの工夫と活動や役割の設定</li> <li>・一定の期間、十分な活動に継続して取り組み、その中でミニゴールを設けて達成感を味わったり、次への意欲付けを図ったりする単元計画</li> <li>・活動の目的が分かるような単元計画の提示や学習活動の掲示の工夫</li> <li>・活動の目的ややること、頑張ることが端的に分かるような導入の工夫とそれに対応した振り返りの充実（どうしてよかったのか、何をがんばったのか等）</li> </ul>
------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 中 学 部 の 実 践

### 1 生活単元学習の目標

- ・行事や学級・学年のテーマに応じた実際的な活動を繰り返す中で、自分で課題を見付け、考え、行動するなど、主体的に活動する力を高める。
- ・集団で活動に取り組む中で、仲間と一緒に考えたり協力したりするなど、関わり合いながら課題解決をする力を高める。さらに、集団の一員として自ら役割を果たそうとする意欲や態度を育む。

### 2 年間指導計画立案の留意点

○様々な人と学ぶことができる単元	年間を通したテーマを設定し、継続的に他学部や地域とつながりをもつ活動を設定する。
○学習の成果を発表し、認め合う単元	各学年で継続的に取り組んできた活動を生かし、お世話になった方を招き、学習したことを発表する「中学部まつり」を行う。
○学年合同の単元	普段の学習を生かし、リーダーとなり活動を進行する、分担された役割を果たすなどの場面を設定し、より大きな達成感を得ることができる活動を設定する。 ・新入生を迎える会、宿泊学習、学校祭、中学部まつり 卒業生を送る会
○進路学習に関する単元	高等部や将来の生活に関連する学習を設定する。1年生は、作業学習と関連付けながら進める。 ・高等部現場実習の見学、高等部体験、職場見学や体験 ・高等部受検に向けて（3年生）




### 3 年間指導計画の単元構成

	4月	5月	6月	7・8・9月	10月	11月	12月	1月	2・3月
1年	学級づくり	お茶プロジェクト①	宿泊学習	はたらく①	学校祭に向けて	お茶プロジェクト②	中学部まつり	お茶プロジェクト③	
2年		しらかみチャンネル①		しらかみチャンネル②		働くこと①		しらかみチャンネル③	働くこと②
3年		修学旅行	昼食を作ろう	働く力のステップアップ		卒業に向けて			

### 4 生活単元学習の授業づくりのポイント

- ・生徒同士が活動する中で「分かった、できた、気付く・考えを深める（もっと知りたい）」ことができるように伝え合う、認め合う、協力し合う活動を設定する。
- ・校内、地域の方など、様々な人から学びを得たり、お互いに喜びや楽しさを共有したりする活動を設定する。
- ・個人やペア、グループなど、一人一人の良さを生かすことができる活動や役割を工夫する。
- ・生徒が目的や方法を理解し、取り組むことができるように、活動を繰り返す中で段階的な課題のレベルアップを図る。
- ・期待感と見通しがもちやすい単元のゴールを示す。
- ・生徒同士が協力して活動を進めていくために、生徒同士の伝え合いをつなぐ支援をする。

5 各学年の中心単元の実践 [成果○/課題▲]

中学部1年	
単元名	中1お茶プロジェクト ～中1カフェ～
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを使って調べたことや、動画等を見て気付いたことを適切に抜き出して「接客マニュアル」を作成する。【知・技】</li> <li>・「接客チェックシート」を基に自分の意見を伝えたり、友達の意見を尊重したりしながら、お互いの接客方法を評価・改善する。【思・判・表】</li> <li>・自分の役割や場にふさわしい態度が分かり、適切な言葉遣いや相手に心配りをしながらカフェのおもてなしをする。【学・人】</li> </ul>
指導の実際	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶の知識、基本的な接客動作や心構え、生徒が知りたい知識・技能について、校外の方へのインタビュー、書籍やインターネットを使って調べるなど、実体験と結び付けながら調べ学習に取り組んだ。</li> <li>・実際にお茶をいれる活動やお茶に合う料理作りなどの活動を取り入れることで、お茶への興味関心を深めた。</li> </ul>	
	
<p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の役割分担の話合いを行った。経験が少なく、司会進行や提案の仕方など、基本的な話合い方法を確認し、定着させる段階であった。最初は、教師が補助や助言をしながら話合いを進めたが繰り返し話合い活動の場面を設定することで、徐々に生徒同士の話合いが成立するようになってきた。</li> </ul>	
	
<p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット型端末で自分や友達の接客の様子を撮影し、客観的に評価する場面を設定した。生徒に1台ずつタブレット型端末を配付し、接客動画を視聴することで、どのように接客すればよかったか振り返ることができた。</li> </ul>	
	
成果と課題	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分で本時の目標や頑張りたいことを設定できるようになった。</li> </ul>	
<p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合いの方法や手順が分かり、言葉遣いや言葉選び、心配りなどもできるようになり、意見交換も活発に行われるようになってきた。</li> <li>▲自分の意見を主張しすぎたり、相手の話を遮ったりすることもあるので、話し合いのルールを設定し、確認することが必要。</li> <li>▲ねらいにせまる話し合いになるように、言葉掛けの仕方や時間配分等、教師側の共通理解が必要。</li> </ul>	
<p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○根拠を明確にした発表が定着してきた。</li> <li>○評価を受けた生徒が自分の動きを動画で確認し、どのように改善したらよいか具体的に考えるきっかけとなった。</li> </ul>	

中学部 2 年	
単元名	中2 しらかみチャンネル～能代の魅力を再発見！①～
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地である能代の魅力や、マップ作りに必要な情報を調べる。【知・技】</li> <li>・グループごとにやりとりをしながら、調べた内容を分かりやすくパンフレットやチラシにまとめる。【知・技】【思・判・表】</li> <li>・地域の目上の人を意識した態度や話し方で取材や発表活動を行う。【思・判・表】【学・人】</li> </ul>
指導の実際	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入では、教師が提示するスライドに応じたプリントへめあてなどを書き込む活動や、編集会議を設定したことで、本時の自分の役割が分かり、調べ学習やちらし・パンフレットの制作に取り組んだ。</li> <li>・生徒の興味関心が高いタブレット型端末を活用することで、検索の仕方が分かって調べる、使いたい写真を選ぶ様子が見られた。</li> <li>・「まちっぼ」～能代まち歩きガイドブック～を見本としたことで、パンフレットに必要な情報が分かって調べる、分かりやすい写真や文字を考えて作ることに繋がった。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット作りを2～3人ずつに分かれて活動したことで、互いに意見を出し合いながら、レイアウトを考える、写真を選ぶ、文字を工夫することにつながった。</li> <li>・「おいしいオムライスのお店」「お祭り」のテーマで、お店や観光協会などへ電話取材することを通して、インターネット上には載っていない情報について知り、より詳しいちらし・パンフレット作りにつながった。</li> <li>・能代の街づくりに携わる能代市環境産業部商工労働課の方から、作ったパンフレットについてアドバイスを受ける機会を設けたことで、分かりやすくまとめる工夫について考えを深めた。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの生活単元学習（中1への学校・学部紹介）や総合的な学習の時間（能代科学技術高校への校歌の紹介）の経験を生かし、相手を意識した分かりやすい話し方や伝え方を考え、発表活動を実践した。</li> </ul>	
成果と課題	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入の工夫や、生徒の興味関心に即した教材（タブレット型端末等）の使用が効果的であった。</li> <li>○見本を提示し、文字や写真、文章のポイントを繰り返し確認することが定着につながった。</li> <li>▲幅広い実態に即した課題の設定、教材の準備が不十分であった。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○2つのグループに分かれ、さらに2～3人に分かれたことで、話し合いながら課題を解決することにつながった。</li> <li>○お店や観光協会、市役所の方など地域の方々とやりとりを取り入れたことで、適切な話し方や伝え方を考えることができた。</li> <li>▲ペアによっては自分の考えを広げる、他者の考えに気付くことが難しかった。教師が「つなぐ」役割を担う、課題を明確にすることが必要である。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年間通じて「分かりやすく伝える」をテーマにしたことで、前単元を生かした発表活動を行う様子が見られた。</li> <li>▲毎時間の積み重ねが生徒自身にも分かるように、まとめ場面の工夫が必要である。</li> <li>▲インタビュー取材や発表活動は、国語科や総合的な学習の時間など他の学習とも関連しているが、関連を確認する場面が少なかった。本単元で学んだことを他の学習でも活用できるように、計画的に学習を進めていく必要がある。</li> </ul>	

中学部3年	
単元名	昼食を作ろう ～バランスの良い食事を～
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件に合う買い物や簡単な調理をして昼食を準備する。【知・技】【思・判・表】</li> <li>・健康的な生活を営むために必要なバランスの良い食事について知る。【知・技】</li> <li>・商品選択と買い物、調理等の体験から得た学びをレポートにまとめる。【知・技】 【思・判・表】</li> <li>・健康的な生活の礎となる食事を準備し、食べることについて関心をもつ。【学・人】</li> </ul>
<p>指導の実際</p> <p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品の購入条件（以下3点）を設定したことで、様々な方面から検討しようとしていた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①3色食品群の栄養バランスを考えた商品を購入する。</li> <li>②おにぎりを1つ以上購入する。</li> <li>③予算は700円以内とする。</li> </ul> </li> <li>・店舗内の様子が分かるために360度カメラで撮影した画像を活用した。また、商品陳列棚の様子が分かるためにQRコードで呼び出しができる画像を活用した。任意の場所を拡大表示するためにタブレット端末のスイープ機能を利用した。</li> <li>・購入したい商品名を言葉で伝えることが難しい生徒は、画像内の商品を指さして教師に伝える様子が見られた。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養のバランスを担保するため、3色食品群の重要性について栄養教諭から動画で助言をもらった。ゲストからのメッセージは生徒にとって新奇性があり、注目度が高かった。</li> <li>・前回の買い物学習で購入した商品内容について、各生徒は栄養教諭から「アドバイスメモ」を受け取った。生徒はメモに書かれてある内容を肯定的に受け止め、2回目の買い物学習に生かそうとしていた。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各生徒は購入予定商品の栄養バランスについて、食品メーカーがWeb上で公開しているシュミレーションサイトを利用した。栄養バランスや摂取カロリー等の結果が一目で分かっただけでなく、ゲーム感覚で取り組む様子が見られた。</li> </ul>	
<p>成果と課題</p> <p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食の嗜好性に留まらず、自身の身体を作るものとして栄養を理解しようとしていた。</li> <li>▲各家庭での実践は一部に留まっている。金銭学習と併せて実践を広げていきたい。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▲3色食品群を意識した献立を考え、買い物・調理・試食といった活動の展開をしたかった。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な掲示物に本単元のキーワード「3色食品群」が情報として掲載されていることに気付く生徒がいた。保健・体育の学習において既習の「摂取カロリー」を想起し、2つの条件から食品のことを考えようとしている生徒もいた。</li> </ul>	

## 6 実践の成果と課題 [成果○/課題▲]

### (1) 育みたい資質・能力を明確にした目標設定について

- 年度初めに中心単元の年間計画を主に学年で話し合い、目標や生徒の目指す姿について確認した上で学部内で発表、検討したことで、年間の生活単元学習を計画的に送ることができた。
- 能代山本地域の学習資源である「しらかみの恵みを生かした学習活動」からテーマを設定することで、生徒の興味関心に沿った学習活動を展開することができた。
- ▲年度初めに各学年で話し合ったものの、生活単元学習と各教科の関連については十分に検討されたとは言い難く、どの教科が合わせられているのかの検討や各教科における生徒の学びの履歴などの検討が不十分であった。
- ▲どの学年の生徒も幅広い実態があり、それぞれに適した目標設定や必要に応じた教材などの準備は、もっと検討を重ねて取り組めたのではないかと。

### (2) 主体的・対話的で深い学びの視点での授業作りについて

- 年度当初はタブレット型端末を使用することで、生徒のより意欲的な姿を引き出すことができたが、繰り返し使用することで、タブレット型端末での記録や調べ学習が定着し、様々な活用方法を取り入れられた。
- 高等部や地域の高校生との学習で、先輩の姿を手本に学習時の態度や言葉遣いなどを学ぶことができた。また、小学部との学習では、小学部生に上手に伝える方法を考えることで伝える力の成長につながったので、今後も他学部や異年齢の集団との連携を図っていきたい。
- 直接、または電話取材などで間接的に地域の方々から助言をいただき、次の学習に生かすことで制作物の内容や買い物学習などをより深められた。
- 生活単元学習で学んだ発表や話し合いを日常生活や他の学習に生かし、総合的な学習の時間で学んだタブレット型端末の基本的な使い方を生活単元学習に生かすなど、相互に関連させた学習活動を進められた。
- ▲授業の構成では、主たる活動に多くの時間を割いてしまうため、最後に位置するまとめの時間が短くなってしまいがちである。今年度の研究授業を行う際もまとめの時間の確保が課題になったが、検討を重ねての授業でもまとめの時間が足りなくなることがあったので、授業計画の検討や授業構想を工夫したい。
- ▲全校研究会や学部内の研究会で、評価場面の在り方が多く話題に上がった。本時のめあてや手立ての妥当性を検討するように、それに対してのまとめが適切であるか、授業内での生徒の活動に対して効果的な即時評価が行われているか、教師同士が定期的に検討を重ねて良い形を探っていきたい。

### (3) 生徒の変容：「わかった、できた、もっと知りたい」という姿

- 少人数グループでの話し合い活動を繰り返し行ったことで、生徒同士で司会進行をし、関わり合って学習を進める姿や自分の役割を果たそうとする姿が見られるようになった。
- 一人1台のタブレット型端末を授業内で使用できるようになり、調べ学習や写真や動画での記録、発表活動など多方面で、意欲的に活用するようになった。
- 3学年とも伝えることを学習内で取り入れていることで、多数の生徒が生活単元学習以外の生活場面でも伝える力が向上し、不調や不安を訴え、希望を伝えられるようになった。
- ▲授業の成果を学部内や校外に効果的に発信することで、より広い範囲の人から評価をしていただき、生徒にフィードバックすることで、より意欲的な姿や学習の深まりを目指したい。
- ▲道徳をはじめとする学校の教育活動全体を通じて行う指導について、評価や記録の工夫、効果的な共有方法を検討し、生活単元学習の中心単元をはじめとする学習にもっと還元したい。

## 7 今後の取組

- (1) 合わせた指導における各教科との関連
- (2) 授業におけるまとめの時間の充実と適切な評価

## 1 生活単元学習の目標

- ・行事や学級・学年のテーマに応じた実際的な活動を繰り返す中で、自分で課題を見付け、考え、行動するなど、主体的に活動する力を高める。
- ・集団で活動に取り組む中で、仲間と一緒に考えたり協力したりするなど、関わり合いながら課題解決をする力を高める。さらに、集団の一員として自ら役割を果たそうとする意欲や態度を育む。

## 2 年間指導計画立案の留意点

○様々な人と学ぶことができる単元	年間を通したテーマを設定し、継続的に他学部や地域とつながりをもつ活動を設定する。
○学習の成果を発表し、認め合う単元	各学年で継続的に取り組んできた活動を生かし、お世話になった方を招き、学習したことを発表する「中学部まつり」を行う。
○学年合同の単元	普段の学習を生かし、リーダーとなり活動を進行する、分担された役割を果たすなどの場面を設定し、より大きな達成感を得ることができる活動を設定する。 ・新入生を迎える会、宿泊学習、学校祭、中学部まつり ・卒業生を送る会
○進路学習に関する単元	高等部や将来の生活に関連する学習を設定する。1年生は、作業学習と関連付けながら進める。 ・高等部現場実習の見学、高等部体験、職場見学や体験 ・高等部受検に向けて（3年生）

## 3 生活単元学習の授業づくりのポイント

- ・生徒同士が活動する中で「分かった、できた、気付く・考えを深める（もっと知りたい）」ことができるように伝え合う、認め合う、協力し合う活動を設定する。
- ・校内、地域の方など、様々な人から学びを得たり、お互いに喜びや楽しさを共有したりする活動を設定する。
- ・個人やペア、グループなど、一人一人の良さを生かすことができる活動や役割を工夫する。
- ・生徒が目的や方法を理解し、取り組むことができるように、活動を繰り返す中で段階的な課題のレベルアップを図る。
- ・期待感と見通しがもちやすい単元のゴールを示す。
- ・生徒同士が協力して活動を進めていくために、生徒同士の伝え合いをつなぐ支援をする。

1 生活単元学習の目標

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）「各教科等を合わせた指導の特徴と留意点」（生活単元学習）の破線部に考慮した。

- ・単元は、実際の生活から発展し、生徒の知的障害の状態や生活年齢及び興味や関心を踏まえたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。
- ・単元は、必要な知識・技能の獲得とともに、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等の育成を図るものであり、生活上の望ましい態度や習慣が形成され、身に付けた指導内容が現在や将来の生活に生かされるようにすること。
- ・単元は、生徒が指導目標への意識や期待をもち、見通しをもって、単元の活動に意欲的に取り組むものであり、目標意識や課題意識、課題の解決への意欲等を育む活動をも含んだものであること。
- ・単元は、一人一人の生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、学習活動の中で様々な役割を担い、集団全体で単元の活動に協働して取り組めるものであること。
- ・単元は、各単元における生徒の指導目標を達成するための課題の解決に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。
- ・単元は、各教科等に係る見方・考え方を生かしたり、働かせたりすることのできる内容を含む活動で組織され、生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な意義のある経験ができるよう計画されていること。

【各学年のねらい】

	人との関わり	地域学習	社会参加
1年	人との関わり方を学び、仲間作りをする。	地域について関心をもつ。	人の役にたつ喜びを知る。
2年	仲間作りを深め、人間関係を広げる。	地域の良さを理解し活用する。	自分の良さを知って活動する。
3年	より良い人間関係を築く。	地域の一員としての意識をもつ。	自分の力を発揮して活動に参加する。

2 年間指導計画立案の留意点

- ・学年ごとに行い、学年の仲間づくりを大切に指導していく。
- ・職業、家庭の内容と重複しないよう、「人との関わり」「地域学習」「社会参加」をテーマにする。
- ・地域学習「知る→活用する→貢献する」のサイクルを学年進行でレベルアップさせていく。

3 年間指導計画の単元構成

	4月	5月	6月	7月	8～10月	11・12月	1・2月	3月
1年	仲間づくり	宿泊学習		お役に立ち隊① 地域編		お役に立ち隊② 小学部編		3年生を送る会
2年		能代を満喫しよう①		能代を満喫しよう②		能代を満喫しよう③		
3年		修学旅行			ミュージカルに向けて		卒業に向けて	
					学 校 祭			次年度に向けて


4 生活単元学習の授業づくりのポイント

- ・生徒が必然性や手応えを感じる本物の活動の設定
- ・生徒が力を発揮する場・ゴールの設定
- ・生徒の興味・関心に基づいた題材の設定



- ・得意なところを生かせる役割や場面の設定
- ・やりがいのある課題や役割の設定
- ・外部評価の活用
- ・生徒同士の評価場面の設定
- ・具体的な評価視点や目標の提示
- ・明確なルールの提示及び日々の指導の積み重ね
- ・地域の方との年間または単元を通した継続的に関わる題材の設定
- ・段階に応じた意見を表現できるツールの活用
- ・グルーピングの工夫

## 5 各学年の中心単元の実践 [成果○/課題▲]

高等部1年	
単元名	お役に立ち隊～じゅんさいをPRしよう～
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特産であるじゅんさいの魅力やPRに必要な情報を調べる【知・技】</li> <li>・友達と意見交換しながら、PR方法を決めたりPR素材を制作したりする。【思・判・表】【学・人】</li> </ul>
指導の実際	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 70%;"> <p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の願い（じゅんさいのPR、地域活性化）や関心を生かした単元設定。</li> <li>・地域の方々のニーズ（じゅんさいを若者に広めてほしい）の把握。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験の共有と話し合い活動の設定。</li> <li>・ICT機器を活用した学習の振り返り場面の設定。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源の活用と地域人材との連携。</li> <li>・外部（じゅんさい農家）との連携と体験活動（じゅんさい摘み取り体験、じゅんさい料理の試食など）の充実。</li> <li>・学んだことを動画や掲示物などにまとめ、伝える機会の設定。</li> </ul> </div> <div style="width: 25%;">    </div> </div>
成果と課題	<p>主体的な学び</p> <p>○生徒の思いから地元の食材を取り上げた。学びを進めるうちに、自分の実家もじゅんさい農家だったこと、給食でもじゅんさい料理を食べたことがあるなどの発言があった。じゅんさいを身近に感じ、興味関心の高まりが見られた。</p> <p>○PRをする対象者を絞ったことで、伝える内容について相手を意識して考えた。</p> <p>▲生徒主体の授業を展開できるよう、めあてを具体的行動で示すなどの工夫が必要である。</p> <p>対話的な学び</p> <p>○体験や取材、身近なICT機器を活用して情報を収集、発信する活動を通して、自分の意見を言うことに苦手意識のある生徒も自分の意見を伝えることが増えた。タブレット型端末や電子黒板を活用し、情報収集のみならず、情報の整理や制作物の比較や改善など幅広く活用し、生徒が主体的に行動するためのツールとして有効であった。</p> <p>○地元の人々と関わることで協力を得ている、期待されていると感じ、意欲向上につながった。</p> <p>▲生徒同士で積極的に対話できる工夫が必要である。相手に意見を伝え、聞く活動を生活単元学習だけでなく、他教科とも関連させながら取り組む必要がある。</p>

### 深い学び

- 地域と連携したことで、地域のために行動し、学んだことを相手に分かりやすく伝えようとする姿が見られた。
- 能代・山本地区を学習の場と捉え、体験や交流活動を数多く取り入れたことで、生徒が地域を深く知ることへとつながり、地域への貢献意識を実感することへとつながった。

## 高等部 2 年

単元名 能代の魅力を満喫しよう！～ラーメン開発～

目 標

- ・能代・山本地区の特産品やそれらを使った活用方法を知る。【知・技】
- ・自分の意見を伝えながら地域の人のアドバイスや友達の意見を受け入れ、能代・山本地区の魅力が伝わるアイデアラーメンを考案し、ゲストティーチャーに報告する【思・判・表】【学・人】

### 指導の実際

#### 主体的な学び

- ・生徒の興味や関心を生かした単元設定。
- ・生徒が自ら課題を発見し、解決のために主体的に活動する場の設定。
- ・地域資源（地元特産品の活用、外部講師としてラーメン店主との連携など）の活用。



#### 対話的な学び

- ・アイデアラーメンの完成に向けた話し合い活動の設定とグループ編成の工夫。
- ・話し合いの手掛かりとなる記録や実物の提示。
- ・課題解決に向けて、外部講師とやりとりする機会の設定。



#### 深い学び

- ・繰り返し試行錯誤することができる学習活動の工夫。
- ・他者（友達や外部講師など）の意見を聞き、自分の意見を再構築する機会の設定。



### 成果と課題

#### 主体的な学び

- 生徒の「食」への興味関心を生かした内容を設定したことで、生徒自身が学習活動に対して意欲的に取り組み、一人一人が自らの考えを伝えようとする姿が見られた。
- 定期的に外部評価（ラーメン店主）をいただいたことで、次時の課題が明確になり、生徒自身が主体的に課題解決しようとする姿へとつながった。

#### 対話的な学び

- 試作したラーメンを試食し、改善に向けた話し合い活動を設定したことで、自らの意見を言葉や身振り手振りで伝える姿が多く見られた。
- 地元特産品に触れ、地域の方々と交流する機会は、生徒たちにとって新たな発見を生み、思考をさらに促す機会となった。
- ▲日々の学級経営や他教科での学習活動の中で、伝える力や聞く力を育てていくことが必要である。
- ▲生徒の実態を把握し、話し合いのテーマや内容を吟味する必要がある。

#### 深い学び

- 生徒や外部講師の意見を即時に試行できる環境を設定したことで、新たな疑問や発見が生まれ、生徒同士で課題解決しようとする姿へとつながった。
- 繰り返し話し合い活動や外部講師と交流する機会を設けたことで、自らの意見だけでなく、他

者の意見を参考にしながら行動しようとする姿へとつながった。  
 ▲ラーメンの完成後の発展・展開を生徒自身がイメージできる工夫が必要である。

高等部3年	
単元名	最高の卒業にするために～計画～
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意なことを生かして卒業文集や卒業制作を制作する。【知・技】</li> <li>・自分の意見を持ち、他者の意見を尊重しながら話し合いを進め、物事を決定する。【思・判・表】</li> <li>・卒業に向けてこれまで作ってきた思い出を形にするために進んで制作に向かう。【学・人】</li> </ul>
指導の実際	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関心や意欲をもって取り組める単元の設定。</li> <li>・卒業文集委員、卒業制作委員どちらの役割を担うか自身で選択する場の設定。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合う内容に応じたグループ編成（人数、分担等）の工夫。</li> <li>・話し合いの参考として過去の文集、制作など実物の提示。</li> <li>・言葉にして表現することが難しい生徒のタブレット型端末の活用。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見の良い部分を見つける時間の設定。</li> <li>・他者の意見を基に自らの意見を再構築する機会の設定。</li> </ul>	
成果と課題	
<p>主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「これまでの思い出を形にする」という点を提示してから学習を始めたことで、全員が自分のこととして意欲的に学習に向かった。</li> <li>○3年間の出来事を振り返ることで、自分自身の成長についても振り返る機会となった。</li> <li>○生徒の役割を明確にしたことで、自分の担当に責任を持ち、友達同士で協力しながら文集を完成させる姿が見られた。</li> </ul> <p>対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的に学習に向かう中でたびたび意見がぶつかる場面も見られたが、相手の意見を理解しようとする様子や友達の意見をどうすれば取り入れられるかを考える様子が見られた。</li> <li>○文集制作で、言葉で気持ちを伝えることが難しい生徒について、タブレット型端末で複数の写真の中から楽しかった行事を選び、その写真を他の生徒がどのような形で文集に載せるか考え、話し合った。</li> <li>▲アイデアを出す際に、考えるヒントが必要である。一方で、ヒントがありすぎるとヒントに引っ張られてしまい、自由な考えが出づらくなってしまったことがあった。</li> </ul> <p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の意見を参考に、自らの意見と友達の意見をバランス良く取り入れながら話し合いをまとめようとする姿が見られた。</li> <li>○卒業に向けた意識の高まりから、自分のためだけでなく、みんなのためという意識をもって活動する様子が見られた。</li> </ul>	

## 6 実践の成果と課題【成果○／課題▲】

(1) 育みたい資質・能力を明確にした目標設定について

○年度初めに単元・題材検討会を実施した。学年ごとに、生徒にどのような力を身に付けさせ

たいかを考えたことで、活動ありきではない単元・題材検討をすることができた。その結果、学年ごとに特色ある学習活動が展開されることへとつながった。

▲年間指導計画の評価を単元ごとに行った。生徒の変容や、目標に対する手立ての妥当性など、学年ごとに幅広く検討を行った。必要に応じて年間指導計画を修正し、生徒の学びにつながる内容や目標を検討することができた。今年度は学部研究会の中で年間指導計画の評価や修正を行った。来年度も学年や学級ごとに定期的に評価と修正を行うことができるよう、学部としての仕組みづくりが必要である。

▲各教科のねらいや生徒の目指す姿を明確にする必要がある。生徒の実態把握を丁寧に行い、指導目標を明確にしながら職員間で共有していく必要がある。その上で、生活単元学習を通してどのような学習活動を進めていくか検討していく。また、学習活動を設定していく中で、生活単元学習に含まれる教科としての要素やねらいなどをさらに明確にしていきたい。

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点での授業づくりについて

○生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるように、授業進行のあり方を考え、グルーピングの工夫を行った。特にグループ活動において、生徒同士でやりとりする場面を設けたことで、生徒が自ら課題解決に向けた行動をする姿が多く見られるようになった。

○能代・山本地区の魅力を生かし、地域との連携を中心にした活動を数多く実践した。地域と連携したことで、生徒の活動への意欲の高まりが見られ、課題解決に向けて主体的に行動する姿が数多く見られるようになった。地域の方々と継続的に連携し、評価やアドバイスをいただいたことで、生徒自身が地域に貢献している実感をもつことへとつながった。

○プレゼンテーションソフトを使い、PR動画の作成を行った。また、電子黒板に制作物を映し出し、意見を出し合いながら比較・改善を行った。生徒同士で意見や感想を伝え合う場面が見られるようになり、生徒が達成感を実感できるツールとして有効であった。

○「3年生を送る会」に向けた縦割りの授業では、異学年の先輩や後輩とともに活動する機会を設けたことで、役割分担しながら生徒主体で活動を進める姿が見られた。役割が明確にあることで、異学年での活動においても学び合いの姿が見られるようになった。また、パソコンや電子黒板を活用し、出し物を企画するなど、生徒のアイデアや発想を実現するためのツールとしてICT機器も有効に活用された。

▲生徒にとって分かりやすく、実態に応じたためあてとなるような工夫が必要である。また、めあてに対応したまとめの工夫が必要と感じる。生徒自身が学んだことを振り返り、次時への課題を明らかにすることができる学習活動のあり方を検討していく必要がある。

▲ICT機器の活用は生徒の学びを深める大きな一助となった。タブレット型端末を中心とした情報検索や動画再生の活用のみならず、生徒の学びを深める活用方法を模索していきたい。ICT機器を活用することが目的ではなく、ICT機器を通して生徒の学びが深まるような導入の仕方を学部として検討していきたい。また、職員が事前に生徒のICT機器の活用状況を把握し、活用レベルを明確にした上で学習活動や学習集団を設定していきたい。

## (3) 生徒の変容：「分かった・できた・もっと知りたい」という姿

○地域と連携し学習活動を進めてきたことで、地域（魅力や地域の方々の思いなど）を知り、自ら課題を見つけ解決しようとする姿が見られた。地域との連携は、自分たちの活動を客観的に振り返ることへとつながり、課題解決に向けた意欲の一層の高まりへとつながった。

○生徒同士のやりとりを意図的に設けたことで、自分の意見が整理され、友達の意見を取り入れながら行動する姿が見られた。

○ICT機器を活用しながら学習活動を進めてきたことで、自分や友達の制作物を即時に比較・共有することができ、改善に向けて主体的に行動する姿が見られた。

## 7 今後の取組

(1) 各教科の視点を踏まえた学習活動の設定

(2) めあてとまとめの一体化

(3) 生徒の実態に応じたICT機器の活用

## 1 生活単元学習の目標

### (1) 学習指導要領：各教科等を合わせて指導を行う場合の考慮点

生活単元学習は、生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである。

- ・単元は、実際の生活から発展し、生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたものであること。
- ・単元は、必要な知識・技能の獲得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活に生かされるものであること。
- ・単元は、生徒が目標をもち、見通しをもって、単元の活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動をも含んだものであること。
- ・単元は、一人一人の生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、集団全体で単元の活動に共同して取り組めるものであること。
- ・単元は、各単元における生徒の目標あるいは課題の成就に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。
- ・単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるよう計画されていること。

### (2) 各学年のねらい

	人との関わり	地域学習	社会参加
1年	人との関わり方を学び、仲間作りをする。	地域について関心をもつ。	人の役にたつ喜びを知る。
2年	仲間作りを深め、人間関係を広げる。	地域の良さを理解し活用する。	自分の良さを知って活動する。
3年	より良い人間関係を築く。	地域の一員としての意識をもつ。	自分の力を発揮して活動に参加する。

## 2 年間指導計画立案の留意点

- ・学年ごとに行い、学年の仲間づくりを大切に指導していく。
- ・職業、家庭の授業で扱う内容と重複しないよう、生活単元学習では「人との関わり」「地域学習」「社会参加」をテーマに行っていく。
- ・地域学習のスタイルとして「知る→活用する→貢献する」のサイクルを学年進行でレベルアップさせていく。

## 3 生活単元学習の授業づくりのポイント

### ○育みたい資質能力を明確にした目標設定について

- ・生徒の興味・関心に基づいた単元・題材の設定
- ・地域資源や校内資源の活用
- ・段階的かつ発展性のある単元計画の立案
- ・各教科のねらいや目標の明確化
- ・年間指導計画の定期的な評価と修正

### ○主体的・対話的で深い学びの視点

- ・生活単元学習を通して身に付けさせたい力の明確化
- ・段階的で連続性のある指導計画の立案
- ・目標や評価基準の明確化
- ・地域の特性や魅力を生かした学習活動の設定

- 生徒の「分かった・できた・もっと知りたい」という姿を目指して
- ・めあてとまとめの明確化
  - ・学習効果を高めるICT機器の活用
  - ・生徒の思考を促し、学びの経過が分かる板書の工夫
  - ・他者の意見を聞き、自らの考えを再構築する機会の設定

全校授業研究会の記録

1 第1回 全校授業研究会

期 日	令和3年9月3日（金）
単元名	高等部1年 「お役に立ち隊～じゅんさいをPRしよう」
指導助言者	秋田県教育庁 特別支援教育課 指導主事 進藤拓歩
<p>生徒の様子から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発想を生かす、ICT機器の活用、感謝される経験などが入っていた。導入部の教師も生徒も安心した明るい雰囲気が良かった。</li> </ul> <p>授業構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師、友達、地域の方、先哲の考え（じゅんさいの歴史）など、様々な人・ものとの対話的な学びがあった。</li> <li>・まとめで、子どもたちにどうなっていてほしいか、その姿をもとにして、めあてを考えることを大切にする。また、本時のめあては、質的なゴール（工夫したところ）と量的なゴール（できた数）の2つが考えられる。このめあてで授業を継続すると、生徒の変容がとらえやすくなるのではないか。</li> </ul>	

2 公開授業事前研究会

期 日	令和3年9月8日（水）
単元名	小学部3年 「きらきらぐんぐんらんど②～いっしょに遊ぼう夏祭り～」
指導助言者	秋田きらり支援学校 教諭 跡部耕一
<p>児童の様子から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がペットボトルにビニルテープを巻く、ペットボトルを固定するために升に入れる、絵の具の入ったソースボトルを押すなど、たくさんの道具に触れる機会を設定している。</li> <li>・道具の置き場を自分の物、共有の物と区別をしているのがよい。一連の活動の行動分析をすることで、支援が分かりやすくなる。</li> </ul> <p>授業構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2時間1単位授業に2つの活動を設定しているが、本時の学習であれば、「前半の導入・活動、後半の導入・活動→まとめ」とすると、導入の時間が短くなるのではないか。</li> </ul> <p>支援の手立てについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案の「提示する、例示する、紹介する、示す、用いる」は、どのように行うか具体的に表記する。「確認する」は、そこで何をするか表記する。</li> <li>・児童の「すごいね」の後で、教師が「～が（ここがこうだから）すごいね」と補足するなど、教師が称賛するだけでなく、クラスの友達同士で褒め合うことができる「豊かな評価」になるための仕掛けをする。</li> </ul>	

### 3 第2回全校授業研究会

期 日	令和3年11月9日（火）
単元名	中学部1年 「中1お茶プロジェクト ～中1カフェ～」
指導助言者	秋田県教育庁 特別支援教育課 指導主事 菊地真理
<p>生徒の様子から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の最後に次にやりたいことを挙手で示し、「もっと知りたい、やってみたい」の姿が見られた。対面の話し合いの中で友達の様子も手掛かりに、自分なりの答えを出したといえる。</li> </ul> <p>授業構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活単元学習は、生徒がいろいろな経験を通して、多種多様な見方・考え方ができる工夫が必要。学びが深まる授業実践となるよう年間指導計画の見直しを図る。それに伴い、評価の時期と方法も明示する。</li> </ul> <p>支援の手立てについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が十分考え、解決するには支援が多すぎた。生徒が主体的に活動できる「分かって動く」授業作りを大切にする。生徒の気付きを生かし、もっと知りたいにつながる問いかけや働きかけをするには、教師の人数減、役割分担の見直しを図る。</li> </ul>	

### 4 公開授業研究会

期 日	令和3年12月8日（水）
単元名	小学部3年 「きらきらぐんぐんらんど③～みんなでいっしょにもりあげよう」
指導助言者	秋田きらり支援学校 教諭 跡部耕一
<p>児童の様子から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から道具を取りに行く、声を掛けるなど、子どもたちが見通しをもって活動している様子がとてもよく分かった。</li> </ul> <p>支援の手立てについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理モデルの「入力、処理、出力」に沿って、「主体的・対話的で深い学び」を考えると以下ようになる。授業の中で、「処理」の部分に仕掛けをする。例えば思考を「見える化」することで、子どもの深い学びが進むのではないか。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「入力」（見る、聞く） → 「処理」（判断する、分析する） → 「出力」（話す、行動する）          対話的な学び → 深い学び → 主体的な学び</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びは、「出力」を支援する手立てを評価する。（子どもが話す、行動するように、教師が問い掛ける、演示する、手本を見せる など）</li> <li>・対話的な学びは、「入力」を支援する手立てを評価する。（子どもが見る、聞くように、教師が対象に注目させる、見本を示す、言葉がけをする など）</li> <li>・深い学びは、「処理」を支援する手立てを評価する。（子どもが分析、判断できるように、教師が質問をする、予定表やイラスト等で支援するなど）</li> </ul>	



## 高等学校 1 年 生活単元学習 学習指導案

日時 令和 3 年 9 月 3 日 (金) 10:20-12:00

場所 音楽堂 (全体、グッズグループ)  
高 1 A 教室 (豆知識グループ)

授業者 高 1 B 教室 (料理グループ)  
佐藤 肇 (T 1) 伊藤 友和 (T 2)  
佐藤 草 (T 3) 澤井 裕子 (T 4)

### (3) 指導について

- 生徒が自信をもって P R 活動を進めることができるよう、本単元では以下の点に留意する。
  - 目的を意識して活動できるよう、じゅんさいに関わる人々の顔と、メッセージを毎時、壁面に掲示する。
  - 言葉での指示の意味が分かり、自信をもって活動できるよう、写真や具体物、手順表等を掲示する。
  - 積極的に自分の意思や意見を伝えることができるよう、考えの根拠を調べる探検を勧める。また、面白い活動の察は小グループを設定する。
  - 互いの頑張りを認め合うことができるよう、電子黒板を使って学習の進捗状況を見合う場を設ける。
  - 活動の成果の良さや課題が分かり、自信をもって発表やその工夫・改善をすることができるよう、校内の教師や先輩生徒、P R や ICT に関する地域の専門家などから評価やアドバイスをもらう機会も設定する。
  - P R の相手は、安心して活動することができるよう、普段から来校の機会があり、少人数の集団で「若い人」のイメージに合う、しらかみ看護学校の生徒に依頼する。

### 4 指導計画 (総時数 32 時間)

次	小単元名と 主な活動内容	目 標	時数
一	(1) じゅんさいの魅力体験しよう ・ じゅんさいの楽しみ取り体験やインタビューをする。 ・ じゅんさい料理の試食をする。 ・ 体験したことを掲示物にまとめる。	・ 体験やインタビューを通して、じゅんさいの魅力を知る。【知・技】 ・ じゅんさいの魅力 (楽しさ、おいしさ、豆知識) が見る人に伝わるように工夫して掲示物を作る。【思・判・表】	10
二	(2) P R 活動の準備をしよう ・ 校外の方々へじゅんさいの魅力伝える方法を検討する。 (料理グループ) ・ じゅんさいのおすすすめ料理を試食し、記事を書く。 (豆知識グループ) ・ じゅんさいに関する動画を作成する。 (グッズグループ) ・ じゅんさいのイラスト付きのメモ帳を作成する。	(料理グループ) ・ おすすすめのじゅんさい料理のおいしさの記事を書く。【思・判・表】 (豆知識グループ) ・ じゅんさいについての疑問点を出し合ったり、調べたり、質問したりしたことをまとめる。【思・判・表】 (グッズ作りグループ) ・ 友達と相談し、協力や分担をして P R グッズを作る。【思・判・表】	10 (特 7・8・10)
三	(3) じゅんさいの魅力を届けよう ・ これまでの活動を基にした P R 動画をしらかみ看護の学生に披露し、改善を図る。 ・ 体験などでお世話になった三種町の方々に、活動成果を報告する。	・ アンケートから、動画の良さや改善点が分かり、より良いものを作る。 【学・人】 ・ 学習を通して分かったことや感想をまとめ、発表する。【思・判・表】	12

### 1 単元名 お役に立ち隊〜じゅんさいを P R しよう

#### 2 単元の目標

- (1) 地域の特産であるじゅんさいの魅力や P R に必要な情報を調べる。【知・技】
- (2) 友達と意見交換しながら、P R 方法を決めたり P R 素材を制作したりする。  
【思・判・表】 【学・人】

【知・技】 知識・技能 【思・判・表】 思考力・判断力・表現力 【学・人】 学びに向かう力、人間性 (主体的に取り組む態度)

#### 3 生徒と単元

##### (1) 生徒について

本学年は男子 8 名、女子 6 名の計 14 名から成る。多くの生徒は全体への指示を理解しておおむね活動に移ることができ、身振りや絵などでの指示が必要な生徒もいる。本校中学部から入学した生徒 6 名、他中学から入学した生徒 8 名で構成され、出身地も能代山本地区の各方面に渡っている。身近な地域の地名は知っているが、どんな名産や公共施設などがあるかは、よく分かっていない。中学生までの学習は少人数で行うことが多かったため、大人教での活動や、人前で話したり、話し合ったりすることに慣れていない。発問に対しての自信のなさから反応に乏しく、行動に移すことが難しい様子が見られる。しかし、周りの様子を参考にすることでやり方が分かり、互いに声を掛け、助け合う姿が増えている。また、生徒は普段の生活でタブレットやスマートフォンなどに触れる機会が多く、情報の多くをインターネット検索や動画配信から取り入れている。

##### (2) 単元について

「お役に立ち隊」の単元は、2 期を通して調べ学習や話し合い活動を行い、生徒同士がお互いの意見を出し合いながら、人の役に立つような活動を実施する。1 期目は地域を題材として「柔葉のじゅんさいをたくさんの人に知ってもらい、三種町に来る人が増えてほしい」という一人の生徒の思いから、地元食材「じゅんさい」の P R 活動をする。じゅんさいは三種町が生産量日本一を誇る。都会では高級食材として知られるが、旬の時期に産地で食べる喜びは、地元の人には浸透していない。本学級の生徒も、給食で提供され、じゅんさいを知っているものの、上記のような魅力を知る生徒は少ない。そこで、生徒たちにじゅんさいの楽しみ取りや様々な料理を味わう体験、じゅんさいに携わる人から直接販売の現状や願いを聞く機会を設定する。収集した情報を基に、各生徒が得意な活動を使い分けて、P R 素材となる動画やメモ帳などのグッズを作成する。その中で ICT 機器を使うことで、じゅんさいや料理についての知識を深め、動画や印刷物などを作成しやすくなる。また、学校祭会場で動画放映、地域の専門学校の方々などに報告すること。普段関わることの少ない校内の幅広い人々に、感謝されたり、助言や評価を受けたことが、生徒の自信に繋がり、地域の様々なことにも興味関心をもちながら、友達と一緒に積極的に学習活動に取り組む姿に変わっていくことが期待できるのではないかと考え、本単元を設定した。

5 本時の計画 (総時数 32 時間中の 17.18 時)

(1) 全体の目標

- ・ P R する相手を意識して、じゅんさいの魅力を伝える P R 素材の動画やメモ帳を作る。

【思・判・表】

(2) 個別の目標と手立て

〈料理グループ〉

氏名	単元の目標	本時の目標	目標達成の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ じゅんさい料理を味わったり、友達の影響を聞いたりして、様々な観点からの感想があることに気付く。</li> <li>【知・技】</li> <li>・ 友達の見聞の良さや頑張りを取り入れて、P R 動画の素材を作る。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の影響からじゅんさいのおいしさが伝わる感想を選び、記事に記載する。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の書いた感想シートを味や食感などの観点ごとに分類し、同意する部分に印を付けるよう話す。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ じゅんさいを取り巻く問題や、魅力を理解する。</li> <li>【知・技】</li> <li>・ 収集した情報を、友達の意見や教師の助言を受けて整理し、P R 動画の素材を作る。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の感想を参考に、料理の面白さが伝わる文章を書く。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の書いた感想シートを味や食感などの観点ごとに分類して、取り入れたい部分に印を付けるよう話す。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I C T 機器を活用してじゅんさいや P R 方法の情報を収集する。</li> <li>【知・技】</li> <li>・ じゅんさいの魅力が伝わるように工夫して記事にまとめる。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の意見などを参考に、料理のおすすぬ記事を作成する。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考えをまとめる参考となるよう、料理の感想を友達に聞く場面を設けたり、料理のレシピや料理本などの資料を提示したりする。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々なじゅんさい料理の情報を知る。</li> <li>【知・技】</li> <li>・ 伝える相手が興味をもつように工夫して記事にまとめる。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 料理のおすすぬポイントの文章を推敲して、見る人を意識した記事を作成する。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考えをまとめる参考となるよう、料理のレシピや料理本などの資料を提示する。</li> <li>・ じっくりと考えることができるよう、一人で考える時間を保証する。</li> </ul>

〈豆知識グループ〉

氏名	単元の目標	本時の目標	目標達成の手立て
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ じゅんさいの特色について自ら質問して調べられる。</li> <li>【知・技】</li> <li>・ 魅力的な内容を選び、文章でまとめる。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ じゅんさいの美観に関する情報から、若い人が興味をもちそうな内容を選び、説明文をパワーポイントで作成する。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若い人が興味を持ちそうな美観に関するキーワードを準備する。</li> <li>・ 入力方法や書式変更のマニュアルを提示する。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ じゅんさいの特色を I C T 機器で調べる。</li> <li>【知・技】</li> <li>・ 相手が興味をもちそうな情報を文章にまとめる。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ じゅんさいの特色を I C T 機器で調べる。</li> <li>【知・技】</li> <li>・ I C T 機器で視覚的に分かりやすくじゅんさいの特色を表現する。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字の大きさやレイアウトの参考ができる見本のパンフレットを提示する。</li> <li>・ 写真やイラストの挿入方法やアニメーションの機能のマニュアルを提示する。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ じゅんさいの特色を I C T 機器で調べる。</li> <li>【知・技】</li> <li>・ I C T 機器で視覚的に分かりやすくじゅんさいの特色を表現する。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレゼンテーションソフトのアニメーションの機能を用いて、O x K a i z を作成する。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字の大きさやレイアウトの参考ができる見本のパンフレットを提示する。</li> <li>・ 写真やイラストの挿入方法やアニメーションの機能のマニュアルを提示する。</li> </ul>

〈グッズ作りグループ〉

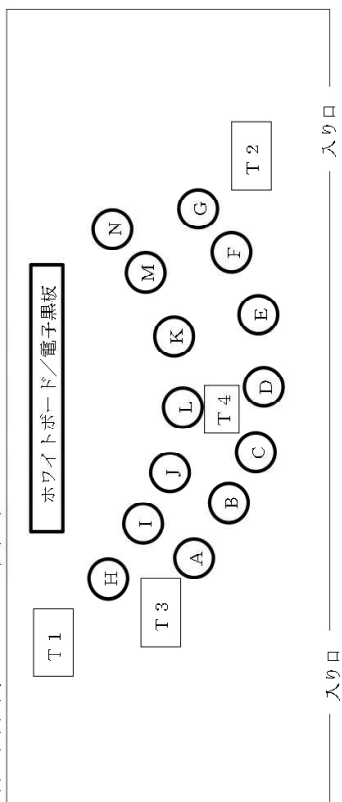
氏名	単元の目標	本時の目標	目標達成の手立て
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ じゅんさい料理を味わい、感想を発表する。</li> <li>【知・技】</li> <li>・ 自分の役割を理解し責任をもって最後までグッズ作りをする。</li> <li>【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メモづくりの活動内容が分かり、決められた数のメモ用紙を正確に数えて、友達に渡す。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安心して活動できるよう、やり方を理解し、自信をもって活動を設定し、見本となる写真や具体物を提示する。</li> </ul>
I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と相談し合いながらじゅんさいの魅力の伝わるグッズ作りをする。</li> <li>【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達や自分の言葉で気持ちを伝えながらはんこを選んで、メモ用紙に押す。</li> <li>【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意見や気持ちを伝えることができるように、役割や活動内容のプリントを提示し、意思の確認をする。</li> </ul>

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	手立て・指導上の留意点
10:20 (10)	1 本時の学習と今後の展開について知る。	本時のめあて 若い人（しらかみ看護学生）にじゅんさいの魅力を伝えよう ・誰に何を伝えるのかを意識できるよう、ターゲットと目的を質問する。 ・P R活動の場面をイメージし、相手や目的を意識できるよう、三種町役場から借用したP Rグッズを提示する。
10:30 (70)	2 グループ活動をする。 〈料理グループ〉 (1) 予め撮影した動画を観て、料理を試食した感想を知る。 (2) 集まった感想を分類する。 (3) おいしさの魅力を考える。 ・感想やキヤッチポイントをパワポインを使ってまとめる、 〈豆知識グループ〉 (1) 動画素材を作成する。 (2) 作った素材を互いに見て、意見を基に改善する。	〈3グループ共通〉 ・本時のめあてで魅力を伝えるために意識したことを発表できるよう、生徒の工夫や頑張りを付箋紙に書いて渡す。 〈料理グループ〉 T 1 ・じゅんさいの魅力を伝えやすいように、試食者が感想の観点（味、見た目、食感、組み合わせの効果など）に沿って発表した動画を使用する。 ・記事を書く際の視点（おいしさ、組み合わせの相性、食感、手軽さ、珍しさ）の一覧を提示する。 ・文章やレイアウトを相談しながら試行できるよう、2人に1台レイアウトのおおまかな枠を提示した ipad を準備する。 〈豆知識グループ〉：高1 A教室 T 2 ・相談しやすいように、T 2は生徒の発言を広げるなど、意見を出しやすい雰囲気を作る。 〈グッズ作りグループ〉：音楽室 T 3、T 4 ・継続して取り組むことができるよう、友達同士でやりとりや複数の活動を組み合わせるなどの工夫をする。 ・友達との協力を意識して活動ができるよう、教師が作った数や仕上がり方を称賛する。
11:40 (20)	3 今日の日活動成果を見合う。 (1) 各グループの頑張りを見合い、感想を発表する。 (2) 動画やメモ帳を披露する場を確認する。	・互いの頑張りを認め合うことができるよう、作成した動画を電子掲示板に提示し、生徒の発表に合わせて注目してほしい部分を拡大したり、印を付けたりする。(T 2) ・それぞれの良さに気付くことができるよう、教師が率先して自由に感想を述べる。(T 1～4) ・P R活動へ期待感をもって準備をすすめることができるよう、出来上がった動画やメモ帳を学校祭の会場で見てもらうことを確認する。

J	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柄み取り体験を通して、じゅんさいを知る。【知・技】</li> <li>・自分の担当する役割が分かり、最後までグッズ作りをする。【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモ帳の表紙に使う写真を選んで印刷したり、背景紙の画面テープを曲がらないように貼ったりする。【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して取り組むことができるよう、完成したものを友達に届けるなど、動きのある活動を取り入れる。</li> </ul>
K	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験を通してじゅんさいの魅力を知る。【知・技】</li> <li>・友達の見聞の良さに気づいたり、自分の考えに自信をもって友達に伝えたりしながらP Rグッズを作る。【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の見聞を取り入れて、工夫しながら、まとめられたメモ帳の作り付けをする。【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信をもってメモ帳づくりができるよう、生徒Nと仕上がりを確認し合う場を設ける。</li> </ul>
L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じゅんさい料理を味わうことを通してじゅんさいを知る。【知・技】</li> <li>・活動に見通しをもち、落ち着いてグッズを作る。【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間いっぱいメモ帳の紙を切ったり、好きな色を選んで色塗りをしたりする。【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やることが分かるよう、メモ帳の見本を手元に置く。</li> <li>・活動の始まりに、側で作る方の手本を示す。</li> </ul>
M	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じゅんさいに関する情報から、興味のあるものを見付ける。【知・技】</li> <li>・友達と声を掛け合っていて、協力してグッズを作る。【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け取る人を意識して、メモ帳の色やスタンプの位置についての意見を出すことができる。【思・判・表】</li> <li>・出来栄を意識して、まとめられたメモ帳の作り付けをする。【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧に作ることもできるよう、メモ帳を受け取った人がどう感じるか、問い掛ける。</li> </ul>
N	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じゅんさい料理や柄み取りなどの体験活動を通して、魅力を知れる。【知・技】</li> <li>・考えや意見を言葉で伝えながら、グッズ作りをする。【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け取る人を意識して、メモ帳の色やスタンプの位置についての意見を出すことができる。【思・判・表】</li> <li>・出来栄を意識して、まとめられたメモ帳の作り付けをする。【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用紙の色やスタンプの位置を決めることができるよう、試行する場を設ける。</li> <li>・Kと協力を意識しながら、適宜仕上がりを確認し合う場を設ける。</li> </ul>

(4) 配置図 (導入・まとめ：音楽室)



(5) 評価の観点

- (生徒) ・効果的にじゅんさいの魅力を伝えるために、友達と相談や協力をして動画やメモ帳を作っていたか。
- (教師) ・問題解決のための場面設定や自分の考えをもつための支援が適切にできていたか。

## 中学部 1 年 生活単元学習 学習指導案

日 時 令和 3 年 1 月 9 日 (火) 13:00~14:15  
 場 所 中学部 1 年教室  
 授業者 鍋岡 裕介 (T1) 大塚 佳樹 (T2)  
 補 佐 堀 地 操 (T3)

1 単元名 中1お茶プロジェクト～中1カフェ～

### 2 単元の目標

- (1) インターネットを使って調べたことや、動画等を見て気付いたことを適切に抜き出して「接客マニュアル」を作成する。【知・技】
  - (2) 「接客チェックシート」を基に自分の意見を伝えたり、友達の意見を尊重したりしながら、お互いの接客方法を評価・改善する。【思・判・表】
  - (3) 自分の役割や場にあわせて適切な言葉遣いや相手への配慮をしながらカフェのおもてなしをする。【学・人】
- 【知・表】知識・技能【思・表】思考力・判断力・表現力【学・人】学びに向かう力、人間性(主体的に学び進む態度)

### 3 生徒と単元

- (1) 生徒について  
 男子 4 名、女子 2 名の 6 名からなる学級である。本校小学部からの入学は 1 名、他 5 名は地域の小学校からの入学で、活発で明るく、素直な性格の生徒が多い。学級では、賑やかで仲の良い様子が見られるが、何気ない言動から言い合いやお互いの不信感につながる場面がある。自分の考えをまとめ、分かちあいやよく発表することや、グループで話し合い、意見を出してまとめることに不安や不慣れな様子が見られる。
- (2) 単元について  
 本学級では、これまで「中1お茶プロジェクト」として椀山茶に関連した学習を重ねている。椀山茶の栽培・販売をする茶舗に行き、見学やお茶の種蒔き体験、茶畑の除草作業をした。その中で茶葉は焙茶だけでなく、紅茶、烏龍茶の三つになることが分かった。それぞれの違いや美味しいいれ方を調べ、色や味、匂い等の飲み比べを行った。その中で、カフェ形式で他の教師に試飲してもらった際、生徒から「楽しかった」「もう1度やりたい」といった感想が出てきた。そこでこれまで学習したお茶の知識を基に中1カフェを通して、他者への気配りや相手の気持ちについて学び、行動する機会として本単元を設定した。

本単元における各教科の内容との関連は次のとおりである。

国語【中・技 1 段階ア(ア)、ア(カ)、イ(ア)】【中・思・判・表 A 1 段階 イ オ】

道徳【小・3・4 年 B(6)、B(8)、B(9)、B(10)、C(12)】

職・家【中 家庭 B 1 段階 ノ(ア)】

### (3) 指導について

指導にあたっては、お世話になった方々へのおもてなしに向けて、「相手に喜んでもらうために」「相手に満足してもらうために」といった心配りや相手の目線に立った接客方法が分かり、お互いに評価や改善ができるようにする。そのために各生徒毎に「接客マニュアル」を作成する。インターネットで調べた接客マナーや、高等部で行う木カフェで接客する先輩の姿を見て、参考となる接客方法を書き込み、自身の行動を明示する。

次に模擬運営を行い、「接客マニュアル」に沿った行動が適切な接客になっていたかを「接客チェックシート」で評価する。「接客チェックシート」は入店時、注文時、配膳・片付け等の態度に◎△の評価と簡潔な理由を書く。自分で評価が難しい生徒には、教師が評価の観点を詳しく示したカードを提示し、口頭でやり取りをする。また、客観的に評価・判断ができるように、お客さん役と振り返りの動画撮影をする生徒にも評価してもらおう。

カフェのおもてなしでは、招待する相手を具体的に思い浮かべながら招待状や会場の準備をする

る。単元のおもてなしの時間として、これまで積み重ねてきた接客練習の成果を発揮することができるよう、評価と改善を重ねながら製作した「接客マニュアル」を生かし、自分たちでカフェを行う。

### 4 指導計画 (総時数 20 時間)

次	小単元名と 主な活動内容	目 標	時数
一	(1) 「接客マニュアル」を作ろう。 ・「お客さんに喜んでもらうために」中1カフェの概要を知る。 ・カフェの礼儀作法を調べる。 ・木カフェの動画で礼儀作法を調べる。 ・「接客マニュアル」にまとめる。	・誰に、どのような気持ちでお茶を飲んでもらいたいかに分かる。 【知・技】【思・判・表】 ・インターネットで基本的な接客方法を調べ、先輩の接客姿を見て、模倣したい部分や参考にした接客方法を発表する。 【思・判・表】 ・接客方法について調べたことや分かったことを整理し、自分の「接客マニュアル」を製作する。 【知・技】【思・判・表】	6
二	(2) 「接客マニュアル」を使って練習しよう。(3回) ・グループ毎に模擬運営する。 ・全員で、振り返りをする。 ・各自の「接客マニュアル」の加筆、修正をする。	・「接客マニュアル」を基に接客する。【思・判・表】 ・「接客チェックシート」を使って接客の様子を評価する。 【思・判・表】 ・接客方法の良し悪しに気付き、自分の更なる改善点に分かる。 【思・判・表】【学・人】	8 (本時 5・6/3)
三	(3) おもてなししよう ・招待状を製作する。 ・カフェの運営、振り返りをする。	・お世話になった方に喜んでもらえるよう、これまでの改善を生かして自分の役割を果たす。 【思・判・表】【学・人】	6

### 5 本時の計画 (総時数 20 時間中の 11、12 時)

#### (1) 全体の目標

- ・お客さんが喜ぶ接客方法が分かる。【思・判・表】

#### (2) 個別の目標と手立て

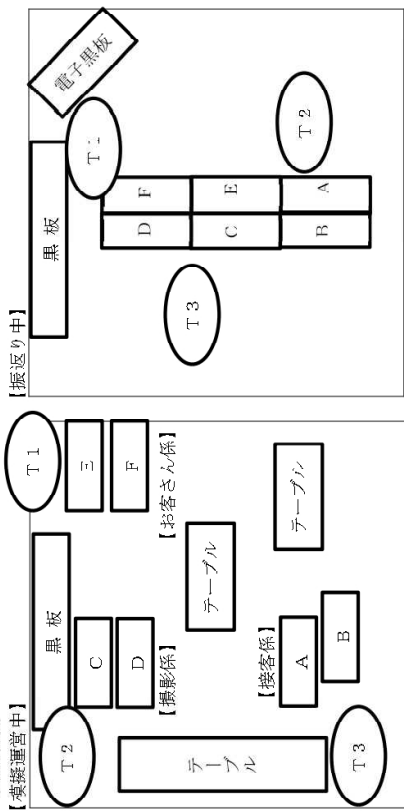
氏名	単元の目標	本時の目標	目標達成の手立て
A 【撮影係】	・調べたことや気付いたことを基に、「接客マニュアル」を作成する。【知・技】 ・友達の意見を基直に受け入れ、接客方法を改善する。 【思・判・表】 ・適切な言葉遣いで接客する。【学・人】	・理由を付けて友達の接客を称賛したり、改善に向けた提案をしたりする。 【思・判・表】	目標達成の handout ・個人で評価する時間を設ける。 ・評価をした理由を質問する。 ・友達の行動に注目して具体的に説明しているか、動画で接客の様子を見直す。

(3) 学習過程

時間(分)	学習活動	手立て・指導上の留意点												
13:00 (20)	<p>1 グループ毎にカフェの模擬運営をする。</p> <p>(1) 準備 打合せをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>接客係は、チャレンジポイントを発表する。</li> <li>撮影係は、撮影位置や角度を確認する。</li> <li>お客さん係は振る舞い方を確認する。</li> </ul> <p>(2) 開店する。「接客マニユアル」を基に接客する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>撮影係はチェック項目に合わせて、接客の様子を撮影する。</li> <li>お客さん係は接客係の案内に従って動く。</li> </ul>	<p>手立て：お客さんがさらに善ぶ接客方法を提案しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>接客係には、前時決めたチャレンジポイントを「〇〇するの、～を見てほしい。」と説明できるように、語型を話す。</li> <li>ベルを手渡し、日直が全員に開店を周知する。</li> </ul> <p>【模擬運営係・接客撮影担当グループ】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>グループ①</th> <th>グループ②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>接客係</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>撮影係</td> <td>A</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>お客さん係</td> <td>E</td> <td>F</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>撮影係には、どんなポイントに注目して動画を撮影すると後で評価しやすいのか T 2 が質問する。また、接客のやり取りが見えやすい位置や距離を実際の場で示す。</li> <li>必要に応じて T 1 はお客さん係、T 2 は撮影係の補助を行う。T 3 は注文に応じたお茶を入れる。</li> <li>接客中に不測の事態が起こった場合、接客係の生徒からの相談や申し出を待って対応する。</li> </ul>		グループ①	グループ②	接客係	C	D	撮影係	A	B	お客さん係	E	F
	グループ①	グループ②												
接客係	C	D												
撮影係	A	B												
お客さん係	E	F												
13:20 (40)	<p>2 「接客チェックシート」を使って振り返りをする。</p> <p>(1) 撮影した動画を見て評価を確認する。</p> <p>(2) お互いの評価を項目毎に比較する。</p> <p>(3)良かった部分や改善点について理由を付けて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>T 1 は、C→D の順番で進行する。</li> <li>映像を見て評価するのが難しい生徒には、動画を止めて接客の様子を説明する。</li> <li>◎がそろった項目や評価が分かれた項目、△の評価が多かった項目について「〇〇さんはなぜそう思いましたか」等と評価者に質問し、発表のきっかけ作りをする。</li> <li>評価を基に更なる提案ができるように「どうしたらもっと喜んでもらえそうですか」等と質問する。</li> <li>時間や状況を見て、再度模擬運営の機会を設定する。</li> </ul>												
14:00 (15)	<p>3 各グループの発表</p> <p>(1)「接客マニユアル」に今日分かったことを書き加える。</p> <p>(2)今回のチャレンジポイントの結果と改善方法について発表する。(C、D)</p> <p>(3)次回の模擬運営に向けて役割を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の接客係の振り返りや話し合いの中で気付いたことを再にする事ができるように、板書や「接客チェックシート」を見るように話す。</li> <li>T 1 は、iPad で C、D の接客マニユアルを撮影し、発表時電子黒板に投影する。</li> <li>「〇〇だ」と思いました(〇〇です)。なぜなら～」の語型をホワイトボードに提示し、理由の伴った発表を促す。</li> <li>全体で次時の接客係、撮影係、お客さん係を発表し、次時への意欲や見通しをもたせる。</li> <li>次時の接客係は、次時に挑戦することや見てほしいポイントを決める。</li> </ul>												

B 【撮影係】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「接客チェックシート」に沿って、友達の評価を説明する。【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が気になった箇所を説明しやすいように、評価の観点を詳しく示したカードを提示する。</li> </ul>
C 【接客係】	<ul style="list-style-type: none"> <li>接客の手順が分かり、「接客マニユアル」を作成する。【知・技】</li> <li>友達からの意見を参考にして接客方法を改善する。【思・判・表】</li> <li>場にあふさわしい態度や適切な言葉遣いで接客する。【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良かった点、改善点を話しやすいように、評価の観点を詳しく示したカードを指しながら質問する。</li> </ul>
D 【接客係】	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な言葉遣いや礼儀作法が分かり、「接客マニユアル」を作成する。【知・技】</li> <li>相手と考えた発言や言葉遣いに気付き、接客方法を改善する。【思・判・表】</li> <li>場にあふさわしい態度や適切な言葉遣いで接客する。【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員の「接客チェックシート」を横に並び、◎△の評価や共通した意見を色分けして示す。</li> </ul>
E 【お客さん係】	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのようにすれば適切に対応できるか考えて、「接客マニユアル」を作成する。【知・技】</li> <li>友達からの意見を参考にして接客方法を改善する。【思・判・表】</li> <li>お客さんへの気遣いや心配りをしながら接客する。【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気になった箇所を指さしで答えることができるように、評価の観点を詳しく示したカードを提示する。</li> </ul>
F 【お客さん係】	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な接客の手順が分かり、「接客マニユアル」を作成する。【知・技】</li> <li>相手と考えた発言や言葉遣いに気付き、接客方法を改善する。【思・判・表】</li> <li>場にあふさわしい態度や適切な言葉遣いで接客する。【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画を止めながら「接客チェックシート」の項目に対応している場面を示す。</li> </ul>

(4)配置図



(5)評価の観点

- (生徒) ・接客の更なる改善につながるような提案や話し合いをすることができたか。
- (教師) ・生徒が「接客チャットシート」の注目すべきポイントが分かり、発表や話し合いに活用する手立てや言葉掛けは適切であったか。

### 小学部3年 生活単元学習 学習指導案

日 時 令和3年2月8日(水)10時40分～11時25分  
場 所 小学部3年教室、小学部プレイルーム  
受業者 菊地直枝 (T1)、佐藤礼子 (T2)

1 単元名 きらきらぐんぐんらんど③～みんなであっしょにもりあげよう～

#### 2 単元の目標

- (1) 制作活動に繰り返し取り組むことで約束を守って道具を使うことができる。 【知・技】
- (2) 相手に喜んでもらえるように、手順通りに見本と同じものになるよう制作する。 【思・判・表】
- (3) 自分の役割に進んで取り組み、伝わりやすさや話し方や丁寧な物の渡し方等に気を付けてお客さんとやり取りをする。 【知・技】 【思・判・表】 【学・人】

#### 3 児童と単元

(1) 児童について  
男子3名、女子1名計4名の学級である。1名は身体の動きや移動に支援を必要とする。コミュニケーションに関して、発語は不明瞭であるが簡単な会話が成り立ち児童、発声や指差し、簡単な身振りや要求を伝える児童等、多様な実態である。学級としての仲間意識があり、一緒に活動しようとする気持ちは育ってきている。これまでの生活単元学習で、様々な道具や素材を使った制作活動に意欲的に取り組んでおり、前回の「きらきらぐんぐんらんど②」では招待状やプレゼントの制作に繰り返し取り組むことで、道具の扱い方が上達し、相手に喜んでもらうために色や飾り付けを考えて制作する姿が見られた。また、他学年の友達を招待して一緒に遊ぶ活動を繰り返し行ったことで、遊具の設置や片付けを友達と協力して行い、遊びに来た友達の笑顔を見て喜ぶ姿も見られた。

(2) 単元について

「きらきらぐんぐんらんど」は年間4回の単元設定をしており、今回は3回目である。1回目の単元では遊ぶことを楽しみに、様々な道具を使って遊具を制作した。2回目は一緒に遊ぶことを楽しみにし、身近な他学年の友達や教師を招待した。本単元では新たな遊具とチケットやプレゼント作りの制作活動と、友達を招いて「きらきらぐんぐんらんど」を盛り上げるオープニングや記念撮影等のおもてなしを繰り返し行う。制作活動では遊具を安全に扱いつながるプレゼントする相手を意識して好きな色や形を選んで組み合わせ丁寧を作る工夫が期待できる。遊び場の運営では、繰り返し行うことで役割を知り、遊び方の説明や遊具のやりとりを通して、伝わりやすい話し方や丁寧な物の受け渡しの仕方を知り、友達との関わりが広がると考え、さらに、友達に話し方や丁寧な物の受け渡しの仕方を知らせ、感謝されることが自分たちの喜びにつながる経験を積み重ねられると考え、本単元を設定した。

(3) 指導について

- 指導に当たっては、以下の点に留意する。
  - ・活動が分かりやすいように、導入・展開・まとめの流れを同じにする。
  - ・制作の手順が分かりやすいように、教師が児童と同じ物を使って始めから終わりまでの作り方の手本を示す。
  - ・自分から活動の準備や片付けができるように、道具や素材を置く場所にイラストや写真を掲示し、取る順番を数字や矢印で示す。
  - ・児童が自分の役割を覚えることができるように、必要に応じて使う物に顔写真を貼る。
  - ・児童が友達の良いところをまねたり認めたりすることができるように、工夫している点やよい行動をしていることに注目させ、学級全体に具体的に紹介する。
  - ・振り返りの場面で自分の気持ちや表現することができるように、児童の実態に合わせて表情や身振りのイラストから選択する等、言葉が補足できるように教材を用いる。
  - ・友達を招待してもなすイメージをもちやすくするために、教師を招待して練習する機会を設定する。

#### 4 指導計画(総時数29時間)

次	小单元名と主な活動内容	目 標	時数
一	(1) きらきらぐんぐんらんど③の準備をしよう ・オリジナルエプロンの制作 ・オリジナル太鼓の制作 ・はいきんたきゲームの制作 ・記念撮影コーナーの看板制作	・制作に使う道具の安全な使い方や作り方を知る。 【知・技】 ・友達の作り方をまねたり、色や形、素材等を選んで組み合わせたりに制作をする。 【思・判・表】 ・お客さんが使うことが分かり、丁寧に制作をする。 【思・判・表】 【学・人】	10
二	(2) 盛り上げ隊になるろう! ・盛り上げ隊の仕事について知る 【知・技】 ・オープニング、ゲームコーナーの運営、終りの会の練習①② ・チケット、プレゼント制作 ・先生を招待して練習	・盛り上げ隊の練習を通して、自分の役割を知る。 【知・技】 【学・人】 ・運営での言葉や身振りを聞いた受け答えの仕方が分かる。 【知・技】 【思・判・表】 ・見本と同じ物を作ることが分かり、手順表を活用したり、教師の支援を受けたりしながらチケットやプレゼントを制作する。 【知・技】 【思・判・表】	8 (本時 7/8)
三	(3) 閉店! きらきらぐんぐんらんど ・4、5、6年生のチケットとプレゼント制作 ・4、5、6年生を招待 ・小学部祭りでお世話になった方を招待	・お客さんにプレゼントする物であることが分かり、チケットやプレゼントを最後まで丁寧に制作する。 【知・技】 【思・判・表】 ・盛り上げ隊の仕事を自分から率先して行う。 【知・技】 【思・判・表】 【学・人】 ・練習した言葉や身振りを聞いて受け答えをし、お客さんとやり取りをする。 【知・技】 【思・判・表】 【学・人】	9
四	(4) きらきらぐんぐんらんど大成功 ・きらきらぐんぐんらんど③の活動を振り返る	・写真を選ぶ、コメントを書く等し、お客さんに喜んでもらえることや仕事に進んで取り組んだこと等を振り返る。 【思・判・表】 【学・人】	2



5 本時の計画（総時数 29 時間中の 17 時）

(1) 全体の目標

- ・ゲーム設置やゲーム運営での自分の役割が分かり、進んで練習する。【知・技】【学・人】
- ・ばいきんたたきゲームの説明の仕方が分かり、言葉や身振りをを用いて説明や受け答えをする。【知・技】【思・判・表】

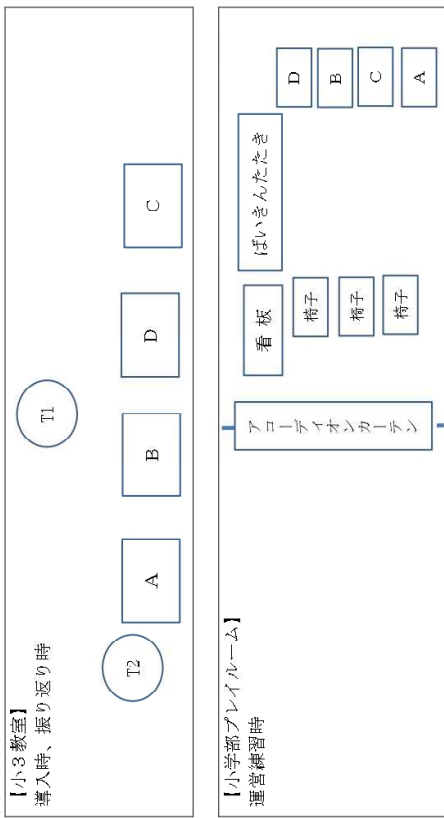
(2) 個別の目標と手立て

氏名	単元の目標	本時の目標	目標達成の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手元や印を見ながら制作したり、お客さんのチケットにスタンプを押したりする。【知・技】【思・判・表】</li> <li>・ゲームの運営で、お客さんの名前を呼んだり「どうぞ」と言ったりしながら関わわる。【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の言葉掛けを手掛かりに、お客さんのチケットにスタンプを押す。【知・技】【思・判・表】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽いついでスタンプを押すことができる補助具を用意する。</li> <li>・手を当てる場所に注目しやすいうように目印を付け、力を入れることが分かるように「ぎゅー」等の言葉を掛ける。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の約束を守って使い、お客さんの好きな色や形を選んで制作する。【知・技】【思・判・表】</li> <li>・ゲームの運営で自分の役割が分かって進んで取り組み、言葉を添えながら物の受け渡しをする。【知・技】【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客さんの遊ぶ順番が分かり、「○○さん、どうぞ」と声を掛けてゲームに使う物を手渡す。【知・技】【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊ぶ順番が見て分かるように、椅子に数字カードを貼る。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の約束を守って使い、お客さんの好きな色や形を選んで丁寧に制作する。【知・技】【思・判・表】</li> <li>・ゲームの運営で自分の役割が分かって進んで取り組み、聞き取りやすい速さで説明や受け答えをする。【知・技】【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客さんが聞き取りやすい速さでルールを説明する。【知・技】【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆっくり読むことができるように、せりふは単語で区切って表記する。また、国語の学習を生かすことができるように、国語の教科書と同じように縦書きにする。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の使い方が分かり、手順に沿って制作する。【知・技】【思・判・表】</li> <li>・ゲームの運営で自分の役割が分かり、自分の仕事を最後まで行う。【知・技】【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームの終わりが分かり、「おしまい」と声を掛けながらベルを鳴らす。【知・技】【学・人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームの終わりを判断することができるように、タイマーを使用する。</li> </ul>

(3) 学習過程

時間(分)	学習活動	手立て・指導上の留意点
10:40(1)	1 初めの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢を正して目印に注目できるように、教師が見本を示して「○○さんを見ます」等の言葉掛けをする。</li> </ul>
10:41(9)	2 本時の活動内容を聞いて頭張りポイントを知り、(1)本時の活動とめあてを知る、(2)活動内容と頭張りポイントを知る。	<p>本時のめあて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを達成するために頑張ることが分かるように、各自の頭張りポイントイラストや写真で提示する。</li> <li>・活動への気持ちを高めるために、日直が前で「エイエイオー」の掛け声を掛ける。</li> </ul>
10:50(25)	3 運達の練習をする。(1)遊具の設置をする。ペットボトル運び(A) ペットボトル設置(D) ゲームの土台設置、看板運び、椅子並べ(B)、(C) お客さんを案内する。(2)お客さんにはんこを押す。(3)チケットにはんこを押す。(4)ばいきんたたきの説明をする。(B)、(C) お客さんがばいきんたたきで遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームや看板等の置き場所が分かるように、必要に応じて写真や番号を置き場所に貼っておく。</li> <li>・Aが友達と関わりながら運ぶことができるように、T2は「○○さんまで待つて行くよ」等の言葉掛けをする。</li> <li>・Dが一人でペットボトルを設置することができるよう、ペットボトルと土台の穴に同じ印をつける。</li> <li>・BとCが土台の設置でテープを貼る位置が分かるように、長机に印を付けておく。</li> <li>・Aが「○○さん、どうぞ」等言葉を掛けながらチケットの受け渡しができるように、T2は「次は誰かな」等の質問をして相手に注目させる。</li> <li>・ルール説明や遊び方の演示をするBとCに注目できるように、T1とT2は必要に応じて「誰をみるのかな」等の言葉掛けをする。</li> <li>・T2は児童と一緒にペットボトルの操作をしながら、様々な場所の穴からペットボトルを出し入れする手本を示す。</li> <li>・お客さんがゲームをしているときに応援で盛り上げることができるよう、T1は応援している友達のを褒めながら一緒に応援する。</li> </ul>
11:15(9)	4 頭張りを振り返る。(1)お客さんからの感想を聞く。(2)頭張りを発表する。(3)次時の活動聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が何について発表するのか分かるように、T1は各自の頭張りポイントのイラストを注目させ、どうだったか考えさせるような問い掛けをする。</li> <li>・本時のめあてを達成できたことに喜びを感じられるように、日直が予定表に花丸シールを貼る。</li> </ul>
11:24(1)	5 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢を正して目印に注目できるように、教師が見本を示して「○○さんを見ます」等の言葉掛けをする。</li> </ul>

(4)配置図



(5)評価の観点

- (児童) ・自分の役割が分かり、自分からゲームの準備や運営をすることができていたか。
- (教師) ・児童が見通しをもって自分から活動に向かうことが出来るような環境設定や必要に応じた言葉掛けができていたか。
- ・児童同士が伝え合い、関わり合うために、適切な仲介や気持ちの代弁ができていたか。

### 1 研究テーマ

「掃除活動における生活指導の在り方」  
 ～一人一人の実態に応じた掃除ができることを目指して～

### 2 テーマ設定の理由

本校寄宿舎では、一日2回、部屋単位で掃除の時間を設けており、学習会での全体指導や部屋ごとの指導を行っている。しかし、これまでの掃除指導では、一人一人に合わせた支援に課題が多かった。そのため、正しい用具の使い方や、場所に合わせた掃除の仕方が身に付いていない生徒もあり、掃除をしても汚れが残っていることが多かった。

そこで、今年度は、一人一人が実態に応じた掃除の技術を身に付ける必要があると考え、本テーマを設定した。

### 3 研究仮説

生徒一人一人の実態に合わせた掃除活動の支援方法を検討し、職員間で共有して指導に当たること、掃除の技術が向上するのではないかと。

### 4 研究内容・方法

- (1) 実態把握と、生徒アンケートの実施
- (2) 指導方法の検討、共有
- (3) 一人一人に合わせた指導の実践
- (4) ICT機器研修と、ICT機器を活用した学習会の実施

### 5 研究計画

月	研究日の内容	主な活動内容	ICT機器研修
4・5	今年度の進め方について		iPad、書画カメラ
6	学習会①について	生徒アンケート① 実態把握	電子黒板①、 顕微鏡
7	学習会②について	学習会①②	電子黒板②
8	技術指導について	技術指導（掃き掃除）	Zoom①
9	指導の振り返り・修正	技術指導（掃除機掛け）	電子黒板③
10	指導の振り返り・修正	技術指導（雑巾掛け）	Zoom②
11	学習会③について		Clips アプリ
12	今年度のまとめ	学習会③ 生徒アンケート②	他校 ICT 活用方法の 共有
1	技術指導について		
2・3	次年度の研究に向けて		

・目標設定  
 ・評価

### 6 研究経過

#### (1) 実態把握と生徒アンケートの実施

実践に入る前に、生徒の実態把握とアンケートでの聞き取りを行った。

実態把握では、基本的な掃除の技術が身に付いている生徒もいるが、正しい道具の扱い方や、隅々まできれいにするための手順など、課題がある生徒もいることが分かった。そこで、掃除の基本技術として、「掃き」「拭き」「掃除機掛け」について一斉指導日を設けて技術指導を行うこととした。

アンケートでは、寄宿舎内の汚れに気付いていない生徒の割合が約半数という結果だった。また、掃除することは大切だと回答した生徒は7割いたものの、その理由について、様々な視点から答えられた生徒はほとんどおらず、掃除の必要性について伝える必要があることが分かった。これらの結果を基に、学習会の内容を検討し、計画した。

(2) 指導方法の検討、共有

指導の実践にあたり、職員全員で、それぞれの箇所の掃除の仕方や教え方について、情報共有をした。手順については、職員によってやり方が違っていることが分かったため、どのような手順で教えていったらよいか、『小学校清掃指導マニュアル』（公益財団法人 全国ビルメンテナンス協会）の資料などを参考にしたり、実際に見合ったりしながら、指導方法を検討・共有する機会をもった。

これにより、どの職員が指導しても、一貫した指導が可能となり、一斉指導日では、部屋毎に一人ずつ職員が入り、少人数できめ細かい指導をすることができた。また、指導後には、指導時の様子をビデオで見て、生徒の様子を共有した。

職員間で話し合い、まとめた指導方法については、『パワーアップブック(生活指導の手引き)』として完成させ、次年度以降も同じ手順で指導できるようにした。

<指導方法の検討・共有>

**指導のポイント～掃除機～**

▶正しい握法を持って持ち運ぶ。

- ・本体についている持ち手の部分とホースのプラスチック部分を必ず持つこと。ホースだけ持って持ち上げると腰痛の原因になる。

▶コードを決められた位置まで引き出す。

- ・畳まで引き出す。(畳までは出さない) 床まで出さないと掃除の効率や、コードが短いことで引っ張ってしまえば掃除の効率性があるため。
- ・床まで、または畳以上出そうとしてしまうと掃除の効率性があるため、畳まで出し、それ以上は出さない。
- ・コード抜き差しの際は電源のプラグをしっかりと押さえて行う。



▶畳めの目に沿って掃除機をかける。

- ・畳の目が粗ざりやすい部分は、畳めの目に沿って掃除機をかけなければ畳に入り込め、ゴミが取りにくかったり、畳を傷めてしまったりすることがある。

▶ゆっくりと前後に動かす（一定のスピードで）。

- ・力を入れすぎると動きがぎこちなくなる、また音がうるさく、ゴミが取れにくくなってしまいます。

ポイント・・・

- ①手は掃除機を支える位置にソフトに持つ
- ②動かす際は力を入れます。滑らせるように



掃除項目ごとの指導ポイント

指導ポイントを基に、全職員で掃除方法の検討・共有

<掃除項目ごとの一斉指導>



掃除機掛けの一斉指導の様子



掃き掃除の一斉指導の様子





雑巾掛けの一齐指導の様子



パワーアップブック（生活指導の手引き）

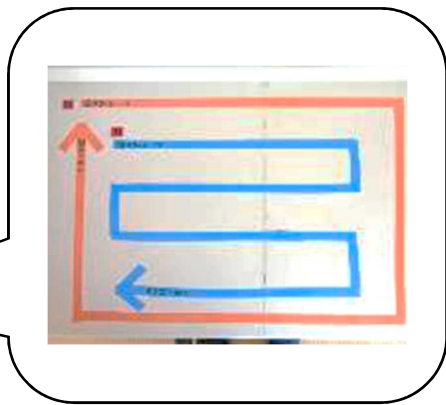
(3) 一人一人に合わせた指導の実践

各生徒の課題や目標、達成するための手立ては、職員がグループに分かれ、それぞれの生徒に合ったものを話し合っただけで決めた。目標や手立ては振り返りカードに記入し、各舎室の入口に設置し活用したことで、生徒自身が自分の目標を意識して活動することができた。特に、シールやテープで道具の動かし方を視覚的に示したり、雑巾の絞り方を練習するための教材を活用したりなどの指導ツールが有効だった生徒に関しては、大きな伸びが見られた。また、効果のあった手立てや指導ツール、指導の様子を職員間で共有する機会を設定し、その後の指導に生かした。振り返り表の活用は、生徒も指導する側も、指導のポイントが分かりやすく有効であった。

実態把握において基本的な掃除技術が身に付いていた生徒（以下、上級者）については、基本の「掃き」「拭き」「掃除機掛け」の他に家庭での生活に必要な掃除を想定し、「トイレ」「風呂場」等の掃除の仕方についても指導をした。その中でも高等部3年生に関しては、卒業後の生活をイメージし、保護者とも相談しながら家庭でできることを考え、冬季休業中に実践した。



テープに沿って拭き掃除をする様子



雑巾を動かす順番や方向をテープで示す



畳のへりに掃除機をかける位置をシールで示す



厚紙を活用したツールで縦絞りの練習

掃除 振り返り表『掃除機がけ』

部屋 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

目標 \_\_\_\_\_

担当の先生のアドバイス \_\_\_\_\_

日付	自分の評価	先生からの評価	先生からのコメント・アドバイス
4/1			

【目標】  
実態把握を基に、生徒の課題となるポイントを設定する。

【担当の先生のアドバイス】  
生徒一人一人に合わせた手立てを記入する。

【自己評価・先生からのアドバイス】  
自己評価・職員評価共に継続して「◎」だった場合、目標達成とし、次の目標を立てる。職員からのコメント、アドバイスは次の掃除の意欲付けになるように、目標に対して具体的に記入する。

それぞれの生徒に合わせた振り返り表

#### (4) ICT機器研修と、ICT機器を活用した学習会の実施

職員のICT機器研修は、月1回のペースで実施した。電子黒板、書画カメラ、マイクロスコープカメラなど、これまで使用する機会がないものばかりだったため、基本の操作方法から学び、学習会等での実践に向け、どのように活用したらよいか検討し、活用した。ZOOMやClip sアプリ等は、今年度は活用できなかったが、今後どのような場面で活用できるか検討していく。

必要性を学ぶ学習会では、マイクロスコープカメラを活用し、生徒自身が寄宿舎の汚れを探す活動をした。また、電子黒板を生徒が操作しながら、見つけた汚れについて発表した。このことにより、アンケートで「寄宿舎に汚れている場所はない」と回答していた生徒全員が、汚れている箇所を発見することができ、掃除の必要性について考えるきっかけとなった。

振り返りの学習会では、各箇所の掃除のポイントを復習した。また、生徒が掃除している動画を見て、どんなところがよかったか、話し合った内容を書画カメラで電子黒板に映し出し、発表した。

学習会でICTを活用したことにより、生徒が興味をもって参加し、積極的に活動したり、発言したりする様子が見られた。7月に行った学習会の内容を、12月の学習会でも覚えている生徒が非常に多く、興味をもって参加しただけでなく、知識の定着にもつながったことが分かった。

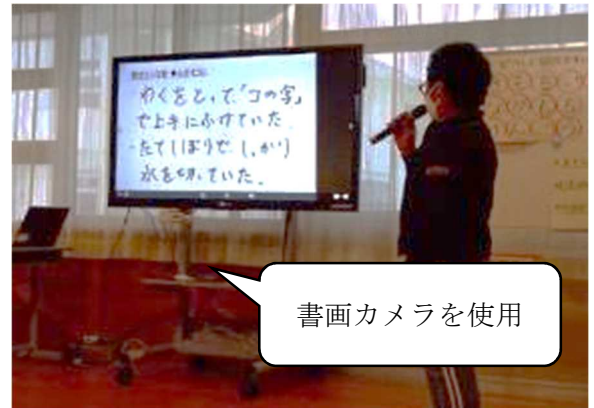
#### < ICT機器を活用した学習会の実施 >



マイクロスコープで汚れ探し



生徒が実際に撮影した洗濯機下の汚れ



< ICT機器研修 >



電子黒板の使い方の研修

ZOOMの使い方の研修

7 成果と今後の取組

(1) 成果

一斉指導日の前に、職員が指導内容やポイントを検討し、共有する場を設けたことで、一貫した指導につなげることができた。また、共通理解した内容を『パワーアップブック』としてまとめたことで、次年度以降職員が替わっても同じ指導を継続することができるようになった。

生徒側の成果としては、個々に合わせた目標や手立てを設定したこと、振り返り表を活用して日々の掃除の取組を継続したことで、技術の習得につながった。

高等部3年生に関しては、家庭での実践を通して、保護者から感謝されるコメントをももらったことで家族の一員としての役割を実感し、習得した技術を家庭での掃除に生かすことができた。

(2) 今後の取組

今年度は、学習会や一斉指導、日々の掃除の取組を通して、必要性の理解や技術の高まりが見られている。次年度も、基本的な技術指導を継続することで、確かな習得を目指すとともに、習得した技術を他の場面でも生かす、自ら掃除に取り組もうとする意識がもてるような指導をしていきたい。また、今年度、上級者に対して行ってきた『将来の生活を意識した取組』を、一人ひとりの実態に合わせた手立てを考えながら全舎生に対して実施する。各生徒が卒業後の生活をイメージし、それぞれの生活の中で『自分の役割を果たす』ことをねらいとした活動の実践をしていきたい。

# 研究の成果と課題



## 研究の成果と課題

各学部の実践から、研究仮説に沿った様々な手立てによって、次の例に挙げたような児童生徒の「分かった、できた、もっと知りたい」という姿が見られた。また、次年度に向けた課題から、今後の研究の取組についても述べる。

### I 成果

通年で継続した単元を設定し、児童生徒が活動に取り組んだことで、ねらいとした力を段階的に育てることができた。児童生徒が自ら活動に取り組むことが増えたり、生活単元学習以外の場面でもねらいとした力の成長を確認できるようになったりした。

小学部	中学部	高等部
育みたい資質・能力を基にした目標設定		
○学年毎に単元・授業検討会を行い、発展性のある単元の実践	○年度初めに年間計画を検討して設定した中心単元の実践  ○生徒の興味関心に沿った「しらかみの恵みを生かした学習活動」からのテーマ設定	○年度初めに単元検討会を行い設定した学年毎に特色のある単元の実践  ○「しらかみの恵みを生かした学習活動」による地域の魅力を生かし、継続した課題解決への取組
主体的・対話的で深い学びの視点での授業づくり		
○見通しや自信をもって取り組める学習内容の設定 ○選ぶ、判断する、考える場面の設定 ○意見や考えを表現するための手立ての工夫	○地域の方や高等部生からの助言を受けて学ぶ学習内容の設定  ○記録や調べ学習など、目的に応じたICT機器の活用	○生徒主体でやりとりしながら課題解決するグルーピングの工夫  ○生徒の実態に応じたICT機器の活用
↓	↓	↓
分 か っ た		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものの名称や扱いを覚え、一人で活動する姿</li> <li>・自分の頑張りや意見を言葉や具体物、身振りで伝える姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用し、調べる、記録する、発表するなど、課題解決する姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用し、制作物などを比較・共有し、改善に向けて行動する姿</li> </ul>
で き た		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動に見通しをもち、自信をもって取り組む姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士で、話し合っって学習を進める、自分の役割を果たす姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の魅力や思いを学び、貢献しようとする姿</li> </ul>
も っ と 知 り た い		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の活動へ期待感をもち、試行する姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の生活場面でも自分の気持ちを伝えようとする姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを整理し、友達の見解を取り入れて行動する姿</li> </ul>

## 1 育みたい資質・能力を明確にした目標設定について

### (1) 児童生徒に分かりやすい単元設定

これまでの生活単元学習は、行事、季節に応じた単元や学部合同による単元に時間を割くことが多かった。今年度は、学年ごとに取り上げたテーマを校内や地域で展開する学習活動が多くなった。身近な人や出来事を基にした学習は、児童生徒の課題解決への興味関心を高めた。このことが、学習活動に見通しをもち、何をすればよいか分かり、自発的な行動に結び付いた。

### (2) 学習活動の展開の工夫

年間を通じて行う単元を考えるときに、本校で行っている地域展開を軸とした「しらかみの恵みを生かした学習活動」の考え方が有効だった。地域とつながり共に担う活動、地域との学び合いを深める活動、地域の環境や校内の自然から学ぶ活動など、児童生徒の実態に応じた地域連携を考え、単元を設定した。地域と交流し相手意識をもち取り組むことが、学習活動の質を高めることに役立った。

また、学部の友達を招待する、他学部の友達に教える、先輩の姿を見て学ぶなど、学部内や学部を超えた様々な関わりも、学習の成果を発揮するよい活動となった。校内資源についても十分活用していきたい。

## 2 主体的・対話的で深い学びの視点で授業づくりについて

### (1) 学習活動の展開の工夫

一単位時間の中で、「主体的・対話的で深い学び」のある授業となるように、多様な実態の児童生徒の課題に効果的な対応を検討した。少人数の活動で各自が役割を果たす、一斉に集まって活動する、成果を振り返り改善するなど、グループ・集団の指導場面を工夫して活動を展開した。こうして、繰り返し学習することで、手順を覚えて進んで課題解決に取り組む、友達の意見を参考に改善を図るなど、児童生徒がよりよい活動にしようとする姿が見られた。

### (2) ICT機器の活用

今年度は、授業の中で様々なICT機器に触れる、使ってみることから始めた。役割を果たす手順を示す、調べたことを分かりやすくまとめる、改善点を分かりやすく示して要点を一斉に振り返るには、タブレット型端末やコンピュータ、電子黒板など、ICT機器の活用が有効であった。今後は、児童生徒が目的行動に向かって自らICT機器を使うことができるようにしていきたい。

## II 課題と今後の取組

生活単元学習は、各教科等を合わせた指導である。その場合においても、「各教科等の目標を達成していくことになり、育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要となる」と特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）にも記されている。また、単元については、「各教科等に係る見方・考え方を生かしたり、働かせたりすることができる内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な意義のある経験ができるように計画されていること」となっている。各学部の実践、全校授業研究会などでも、各教科等との関係が不明瞭であること、授業の明確な評価の仕方が課題に挙げられた。

小学部	中学部	高等部
育みたい資質・能力を基にした目標設定		
▲学年間の単元のつながりや発展性の検討	▲教科別の指導、道徳、自立活動との関連の検討	▲教科別の指導との関連の検討
▲単元の継続的な評価と改善	▲幅広い実態に対応する目標設定や教材準備	▲単元の評価と改善を定期的に行う仕組づくり

主体的・対話的で深い学びの視点での授業づくり		
▲児童が学びを実感できる振り返り	▲十分なまとめの時間が確保できる授業計画	▲生徒に分かりやすいめあてとまとめ
▲学びを共有し、積み重ねが分かる手立て	▲めあてとまとめの妥当性や効果的な評価	
▲児童が自ら操作する効果的な I C T 機器の活用		▲生徒の学びを深める I C T 機器の活用

## 1 育みたい資質・能力を明確にした目標設定について

### (1) 指導内容を明らかにした単元設定

- ・教科横断的な視点を持ち指導することができるように、各単元の学習活動と教科別の指導の内容との関連を明らかにする。
- ・年間指導計画の生活単元学習と他の教科等における指導との関連付けを図る。

### (2) 育みたい資質・能力の評価

- ・年間指導計画の各単元、個別の指導計画の児童生徒の中心課題の評価、改善を定期的に行う。

## 2 主体的・対話的で深い学びの視点で授業づくり

### (1) 活動の達成が分かりやすい学習活動

- ・ねらいとまとめが明確な授業にするために学習活動を精選する。
- ・毎時の授業成果を明確にする評価の方法を検討する。

### (2) 効果的な教材教具の活用

- ・活動の達成感や期待感をもつための板書や掲示物、ワークシート等の活用を工夫する。
- ・児童生徒が目的達成に向け、I C T 機器を効果的に活用できるように、学部毎の活用事例紹介や研修会等を実施する。

## あとがき

令和3年度から令和4年度にかけて

児童生徒の「分かった、できた、もっと知りたい」を高める授業づくりを研究主題として、指導計画の改善、ICT機器の活用を視野に入れて取組を始めた研究ですが、この研究を進める中で様々な課題や問題点が浮かび上がり、そのたびに遅くまで打合せや教材に手を加える先生方の姿がありました。

中でも主題にある「分かった」「できた」について、児童生徒の自己評価としていかに達成感をもたせるのかまた、それをどう読み取るのかという点で頭を悩ませた先生方が多かったように思います。各学部の全校授業研究会において指導助言をいただいた特別支援教育課指導主事 進藤拓歩先生、秋田きらり支援学校教諭 跡部耕一先生からも、「授業のまとめで子どもたちにどうなっていてほしいか、その姿をもとにして、めあてを考える」「教師が賞賛するだけでなく、クラスの友達同士で褒め合うことができる「豊かな評価」になるための仕掛けをする」など評価を中心に全体を考える授業づくりについてご助言をいただきました。

「もっと知りたい」という児童生徒の主体的な学習態度の育成については、特別支援教育課指導主事 菊地真理先生から生徒が十分考え、解決するための支援のあり方、児童・生徒の気付きや児童・生徒に対する問いかけ、働きかけについてご指導をいただきました。

お三方の先生には指導案づくりから、事後の検討会まで細やかなご指導をいただき大変感謝しております。

さて、二年計画の一年目を終えて浮かび上がった課題の中に「生活単元学習」の中で「各教科等の目標を達成していく」難しさがあります。各単元の学習活動と教科別の指導内容の連携をいかに明確にとらえるのか、その評価はいかにあるべきか、児童生徒の個人内評価をどうくみ取るか。研究題材には限りがありません。

また、障害からくる困難さを乗り越える道具としてのICT機器活用、理解を深める、視野を広げる情報収集のためのICT機器活用、感染症対策によって難しくなった体験学習を補完するバーチャル体験のためのICT機器活用などこれまでにはなかった教材教具にも関心は高まっています。ここにも研究題材が数多くありそうです。

これからの研究をどの方向に進め、何を掘り下げるのか、現在全校一丸となって来年度の取組を計画している最中ではありますが、教育活動の背骨として児童生徒の実態把握を細やかに言い、目指す児童生徒像をしっかりと共有し、活動前後の子どもの変化を見逃さないという基本姿勢は揺るがすことなく、新たなことにも挑戦する姿勢を持ちたいと思っております。これからの本校の研究活動に対し引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

教 頭 仲山 智

# 研 究 同 人

校長 佐藤 玉緒  
教頭 仲山 智  
教頭 佐藤 大

研究部主任 高橋 勝  
小学部 伊藤 綾華  
中学部 諏訪 寿昭  
高等部 館山 柗  
寄宿舎 水谷 あすか  
阿部 洋

大田 若奈  
三浦 聡子  
西嶋 一就  
佐藤 初子

## 【小学部】

工藤 未央  
伊藤 綾華  
佐藤 里沙  
小沼 后子  
高橋 沙織  
山谷 美樹  
菊地 直枝  
佐藤 礼子  
武藤 拓人  
鈴木 梨沙  
小林 結衣子  
大田 若奈  
藤谷 和紀  
筒井 仁  
岡崎 直子  
柏崎 久美子  
船山 真生  
淡路 碧海

## 【中学部】

齊藤 舞子  
大塚 佳樹  
館岡 裕介  
菊地 操  
小林 生  
渡邊 正徳  
港 哲子  
諏訪 寿昭  
杉森 利津子  
南 彩瑛  
高橋 正義  
佐藤 洋美  
安田 幸道  
五十嵐 俊輔  
佐藤 明子  
戸田 尚次  
高橋 勝  
田口 芽  
村形 日都美

## 【高等部】

伊藤 健人  
伊藤 友和子  
大山 裕子  
藤田 一輝子  
佐藤 響子  
佐藤 尊  
澤井 裕子  
館山 柗  
妻野 聖花  
小野 格  
秋元 仁美子  
佐藤 加奈子  
橋本 基  
村岡 静香  
鈴木 雄裕子  
三浦 聡子  
平塚 朋子  
工藤 彩野  
山田 育宏  
大高 聡美  
門脇 恵  
由利 和也  
小笠原 英紀  
佐々木 正則  
宮田 豪  
長谷川 善行

## 【寄宿舎】

加藤 智子  
馬場 真理子  
阿部 洋  
金釜 幸  
菊池 未静香  
安保 友希理  
鷺谷 恵  
佐藤 千鶴子  
水谷 あすか  
金子 聡子  
西嶋 一就子  
大高 尚子  
佐藤 初子  
三浦 陽香  
武石 舞子  
目新 源

## 研究紀要 しらかみ 第28号

令和4年3月 発行

発行者 秋田県立能代支援学校  
〒016-0005 秋田県能代市真壁地字トトメキ沢135番地  
TEL 0185-55-0691  
FAX 0185-55-0681  
E-mail noshiro-s@akita-pref.ed.jp  
ホームページ <http://www.noshiroshien.ed.jp>